

令和3年第1回定例会

美郷町議会会議録(第3号)

令和3年3月8日

美郷町議会

令和3年1回美郷町議会定例会会議録（第3日）

令和3年3月8日（月曜日）

◎開会日時 令和3年3月8日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和3年3月8日 午後3時01分 散会

◎出席議員（9名）

1番	山本	文男君	2番	中嶋	奈良雄君
4番	川村	嘉彦君	5番	黒田	仁志君
7番	甲斐	秀徳君	8番	森田	久寛君
9番	園田	義彦君	10番	山田	恭一郎君
11番	那須	富重君			

◎欠席議員 3番 川村 義幸君

◎欠員 6番 富井 裕瑞君

◎会議録署名議員 1番 山本 文男君 2番 中嶋奈良雄君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 坂本梨津子君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中	秀俊君	副町長	藤本	茂君
教育長	大坪	隆昭君	会計管理者	三椏	治君
総務課長	下田	光君	税務課長	甲斐	武彦君
企画情報課長	田常	浩二君	町民生活課長	日高	隆一君
健康福祉課長	後藤	充君	建設課長	林田	貴美生君
農林振興課長	木原	浩一君	政策推進室長	沖田	修一君
教育課長	石田	隆二君	地域包括医療局事務長	尾田	靖君
南郷地域課長	川野	一郎君	北郷地域課長	泉田	浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和3年第1回美郷町議会定例会 議事日程（第3）

令和3年3月8日
午前10時開議

日程第1 一般質問

7番 甲斐 秀徳 議員

1. 産地型商社設立について
2. 農林業作業機械の安全作業指導について

8番 森田 久寛 議員

1. 町道、林道の管理について

4番 川村 嘉彦 議員

1. 西郷地区の学校跡地利用について
2. スマート農業の推進について

2番 中嶋 奈良雄 議員

1. 町道、林道の改修補修について

会 議 録

令和3年3月8日
午前10時開議

【議長 那須 富重】

改めまして、おはようございます。

定例会の三日目であります。本日もよろしく願いいたします。

【議長 那須 富重】

本日は、一般質問であります。傍聴の方もお見えでございます。私たちの議会活動を直接、見ていただきますことは大変、ありがたいことです。

傍聴の方に対しまして、敬意と感謝の意を表します。

1月7日に緊急事態宣言が発令されてから、2月8日には、県は独自の感染拡大緊急警報にレベルを下げてきました。ここへ来まして、五日連続して新型コロナウイルス感染者が発生していないこと、さらに、発生が10万人当たり0.2人まで下がり、九州では一番、落ち着いていると。全国よりも早いスピードで鎮静化できたとして、本日8日から、特別警報にレベルを下げる措置が取られるとされていますが、ワクチンが本格化する中で、高齢者施設等の従事者の方々の会食は自粛していただきたいと。

また、県内は火種が残っている状況ではないが、県外は火種があるということで、医療従事者につきましては本当に大変な思いの中、一般の方に比べて非常に大変な状況にあります。それを思いますと、私たちも何とか応援をしなければいけないという気持ちになります。感染の持込みを防ぐために、さらに不要不急の往来などは自粛してほしいとしています。

【議長 那須 富重】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

川村 義幸議員から、自己都合のため欠席届が提出されておりますので、これを受理しました。

したがいまして、ただいまの出席議員は9名であります。

広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許しました。

【議長 那須 富重】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は8名であります。先週金曜日に4名の質問を終えていますので、本日は残りの4名の一般質問を行います。

【議長 那須 富重】

通告順に質問を許します。

7番、甲斐 秀徳議員の登壇を許し、1問目の発言を許します。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

改めまして、おはようございます。本日は、2項目に沿って質問させていただきます。

今回、2年連続の2020年度産米食味ランキング最高位の特Aを2年連続取得したのは大変、有意義であります。

特に、去年はウンカの被害が多発している中、また、宮崎産のひのひかりで取れたということに対しても意義があるのではないかなというふうに思っております。出品者の御苦労、普及所、行政担当、JAそれぞれの方々の御協力の賜物だと思っております。JAのひむか米の会長としてお礼を申し上げたいと思います。5日の早朝、松下新平代議士より、直接の電話を頂き、おめでとうコールを頂きました。本当にありがたく思っているところでございます。

西北山間地という位置づけを入郷山間地という名称にはならないかなあというふうに、自分だけでも思っております。特に、入郷地区をPRしたいという意気込みがあるからでございます。新型コロナウイルス渦で特A取得を有利販売につなげられるよう、当町も頑張っていたきたいものであります。

今や人生100年の世の中になり、私も生涯現役であるべく、今年よりあと30回の田植をして、100になったならば、シン鍋を囲み人生の反省会をすることを計画しました。そのときここにおられます方々もおおよそ90歳前後だろうと思しますので、もし覚えていたら御参加してください。

また、企画の一環として現在、栗園の再整備を行っております。剪定、高接ぎなどを行い、老後のために栗で稼ぎ、6次産業化構想の栗で一点突破に間に合うよう、今、尽力し、来年度は新植も行う予定であります。「桃栗三年」といいますが、老後資金にする目標で頑張っております。独り言が多くなりましたが、本題に入りたいと思います。

さて、去年は、6次産業化研修会、美郷町異業種サロン、産地型商社とふるさと納税、いろいろな研修会が催され、私も数回、参加させていただきました。

老婆心ながら思ったのが、1番めに人材・資金であり、今後の美郷町の発展のために失敗は許されるものではありません。次世代の若者が1次産業から6次産業までやる気を出せるような取組がまず、必要であると考えます。議会といたしましても、今回は大変、注視しております。美郷町も、それなりの覚悟で取り組むものと考えております。

まず、本題である産地型商社と6次産業化基本構想がほぼ重なりますので、一緒に質問をしたいと思っております。

最初に、産地型商社とは何か、定義を教えてくださいたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

皆さん、おはようございます。議員が「30年後に」という話をおっしゃいましたが、ちょっと自信はありません。もうちょっと前倒しでできればいいかなというふうに思うところでもあります。

それこそ食味ランキングということで特Aを取ったということではありますが、本当にうれしいことでもあります。2019年産でやはり特Aを取りまして、JA日向ひむか米振興協議会の会長ということで、12月4日だったと思うんですが、県の宮崎特選米ということで指定を受けて、そして、今回の特Aということで、さらなるそれにはずみがついたというふうに思うところでもあります。

今後、美郷町産米を特Aという形で売り出すわけにはいきませんが、そのような形の中でしっかりとPRしてまいりたいと思っておるところでもあります。

議員の「産地型商社とは」という話ではありますが、いろいろな定義の仕方はあると思いますが、私の考えでは、この美郷町で作っていく全て、今まである程度、行政がテコ入れしてということではありますが、これは民間主導で作っていくということで、その産地に合った形で合わせていく。

ですので、生産者それと町、それと三者といますかそういう部分が集まって、しっかりと産地型の商社を設立したいと。ここに行くまでには2年間くらいの時間をかけて、しっかりと計画を立ててということ、6次産業化プラスこの産地型商社の設立という形で、今後の美郷町の農業展開・林業展開・商工業展開を図っていきたいというふうに思っておるところでもあります。

以上であります。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

地域商社という定義というのは、読んで字のごとしと言えそうですが、地域における商社ということになるんでしょうけれども、その発展的ないろいろな捉え方があるんじゃないかなというふうに思っております。それは人それぞれの取り方もあるし、このデータによると、いろいろなことで載ってるんですが、それはそれなりのやり方があると思いますので。

ここに至るまで2年間の期間があったということを町長が話されました。経過というのは分かりましたが、そのときに調査研究というケーススタディといったものを行ったと思うんですが、そのときにどういうところの地区を勉強したのかと。そ

して、どういうところに研修に行ったのかと、そのポイントを教えていただければありがたいかなというふうに思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

視察研修地はいろいろなところに行って見てきたということではありますが、そこ辺の詳しいところは企画情報課の課長のほうに、室長にお願いしたいと思います。

考え方が今まで、温泉やらでもそうなんですけど、第三セクターでやってきたという話であります。いろいろな形で当然、先々を見たときに、御案内のとおり今後、セクターをどうするのかという問題も出てきております。ですので、そういう形では今後、非常に難しいという部分がありますので、後々、「美郷町が」という部分で引っ張っていくということには変わりはないんですけど、こちらのほうがいろいろなお金を投資しなくても回れるような仕組みづくりが一番必要ということで、現在に合ったといいますか時代に合った商社をつくっていくことの基本理念の中でやってきたということでもあります。

その一番大きなものがふるさと納税の活用ということでもあります。そういう部分で全国いろいろな形でやっている自治体がありますので、そちらのほうに視察研修を重ねながら、また、その振興協議会等と話し合いながら進めてきたという経緯であります。その場所等については、室長から説明をさせていただきます。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

場所につきましては、邑南町とか、あと山口県の長門市とか、あと県内では高原のはなどうとか、あと新富のこゆ財団とか、いろいろなところを見て回ったんですけども。あと、長崎のほうにも行かせていただいたんですけども、基本的に道の駅とか商社関係で成功事例があるところをピックアップして回ってきました。

その中で、ふるさと納税の代行業務とかそこを中心にして商社とかが成功事例を収めているということで、一応、そこを基本にして建てつけをしていったほうがいいんじゃないかということで、今回、当初は民間ではなくて町が法人を設立するという考え方もちょっと持っていたんですけども、なかなか人材も集まらないということで、そうするうちに民間の事業者さんが興味を示してくれたということで、今回のような民間のノウハウを活用した形になったということでございます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

いろいろなところを見ていただいて、その結果がこういうものに結びついたんじゃないかなというふうに思っております。

先ほど、町長が言われましたように若干でいいですけど、もう一回、商社設立の検討とポイント。こういうものが決定的にこういうふうにしようという、そういうふうに至った経緯を教えてくださいんですけど。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

農林業の振興そして商工業の振興ということではありますが、結果的にそういうことの振興のためにという部分で産地型商社を設立したと。

具体的に今までそういう計画があったかということ、なかなかなかったということでもあります。いろいろなことで「振興、振興」と言うけど、ほんならどうするのかという具体的なものが全然、示されていなかったということでもありますので、その部分について、町長就任したときからいろいろ思っておりましたので、いろいろな形の中で、やはり6次産業化という中の話の中でこういう形が生まれてきたというふうに思っております。

ですので、自分の頭の中ではセクターではつくるなど。もう町が金を出しているいろいろな形ではするなという話をしてました。ですので、そういう形でセクター的につくりますと、非常におんぶに抱っこになってきますので、後々が延びていけないということを考えておりましたので、そういうことではなくていろいろな事例を見ながら、その農林業、そして商工業の振興につながるような具体的なものを作ってほしいということで、その1つのために機構改革も言いましたけど、その中で、政策推進室という部分を作ったわけでもあります。

最初、自分の頭の中には遊休農業の解消といういろいろな意味があったんですが、そこもなかなか難しいという部分もあって、今後、いろいろな形で進めていかなければなりません。

金曜日に、園田議員からそこ辺を一般質問の中で聞かれましたので、それはそれとしてしっかりとやらなければなりません。今度はその産地型商社の中で、その商社と町と、それと町民が連携しながらそれが回っていくという形の中で産業が生まれる、商品が生まれる、そういう形をつくっていくことが今から先の町の強みになるし、またふるさと納税のキックバック商品が生まれてくるということになって、ふるさと納税寄附がまた大きくなってくると、そういう頭の中でこういう形をイメージしてつくってきたということでございます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

いろいろな思いがあってそういうことになったんだと思いますが、この設立をするに当たっての課題というかメリット、デメリットというのはどういうふうに考えて、これを設立の基準にしたのかを教えてくださいんですけども。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

物事には全てその表裏というものがあまして、やはりメリットとデメリットは絶対ついてくるということであります。ですので、考え方はやはりメリットのほうが多いほうを選択していくという部分であります。

ですので、そういう形の中において、やはりその最初から駄目だということではなくて、今から新しい形を模索していくと。宮崎銀行が違う意味で産地型商社の設立をしたということでニュースに出ておりますが、今後そういう形で増えてくるのではなかろうかなというふうに思うところであります。

ですので、今からいろいろな形の中でといいますか、そのスマート農業もそうなんですが、スマート農業をどこまでやれるのかという部分と、そういう整備条件が整ってるのかという部分はまた別問題であります。

ですので、私が考える産地型商社は、今さっき言いましたような形の中においてしっかりとやっていく。そして、「三方よし」といいますが、近江商人が言った言葉であります、「買手よし、売手よし、世間よし」であります。この三方よしをもってよしとしようというキャッチフレーズにして頑張りたい。

ですので、言いますように一番は、メリットは町がセクターみたいに全てを出資するわけではないという部分が一番、強み。そして、その間の民間のノウハウ等を使って、今まで使ったことはありませんので、その中で組み立てていくということが強みかなと。

後は、最初から大きく構えるわけではありませぬので、そのふるさと寄附金の一部を使っていきながら、それがどんどん寄附金にバックしてくれば、少しずつ増やしていくというような形になりますので、それはそれで小さく育てて小さく生んで、大きく育てるといいますか、そういう形になっていけばよろしいかなというふうに思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

何をやってもメリット・デメリットはあると思うんですけども、デメリットは考えないほうが良いということで、それは了解いたしました。

なかなかいい言葉を言いますね。その「三方よし」というのがですね、これも1つの、本当にこのことをやる上では一番のあれかなというふうには思います。

それから、今、町があまり出資しないということなんですが、ちょっとこのデータによると、ちょっと訳の分からないところがあるんですよね。というのは、4ページの6のところの「観光協会の補助金委託料は経由して渡すのを産地型商社にするのか直接するのか」というのが、ちょっとこれ、はっきり分からないものですから、そこのところの説明をちょっとお願いしたいんですけど。4ページのところなんですけど。4ページのところの6番です。

【議長 那須 富重】

資料が確認できますか。

【7番 甲斐 秀徳】

これの6番。一番最初からポイントAがあって、その次のところに、今、町長が言った言葉とちょっと。そしたらもうそこはもう後でもいいですけどね。そしたら、それは後で分かったらいいです。

そしたらもう一つ、違った面から教えていただきたいです。

商社の設置者の選定は1月末に終わってるんですけど、公表ができれば教えていただきたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

3社ですかね、応募がありまして、結局、その中でいろいろな形で面接をいたしまして、Hinataという会社なんですけど、最初からいろいろな形で関わってきた安達さんという方がいるんですけど、その会社の代表者なんですけど、そこが産地型商社の取組をするという形で、町のほうとしては決定をさせていただいたところなんです。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

分かりました。その3社ほどあったということなんですが、他の2社ほどもやはりいろいろな、それは県外の方。これ、Hinataというのは、県内の方ですよ。後は、美郷、ほかの2社は県外の方は含まれていたんですか。その辺ちょっと教えてほしいんですけど。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ちょうど3社といいますのが、株式会社HUTTEの代表者ということで、「県内」と言えば県内、「町内」と言えば町内かなという部分。

それと、今言いましたように株式会社Hinata、それと、有限会社ティーネットプロということで、それぞれ50分ずつプレゼンをしていただきまして、その審査員が8名いるんですが、その8名の点数といいますか評価をして、その株式会社Hinataに決定をしたということです。

このティーネットプロは県内、全て県内ということでございます。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

そしてこれのところの9番めですけども、「拠点施設としては田代小学校を活用する」と書いてありますが、ただしこれのまた10ページのところの途中には、「産地型商社拠点の設置運用は検討中」と書いてあるんですけど、これはどっちがどういうふうになってるのかなど。このフェーズのところじゃあ一番下のところじゃあ「検討中」となってるし、途中のところは何かこう、何かごちゃごちゃしとってよく分からんところなんですけど、そこのところをお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それを作った時点と今の時点と若干、違うのかなということで思っておりますので、室長から御説明させていただきますけど、産地型商社の拠点をどこに置くか、事務所をどこに置くかという部分は、頭の中では多分そうなるだろうと思っておりますけど、田代小学校の幼稚園ですかね、そこに6次産業化というかその栗の事務所と別にそういう形で産地型商社が置ければいいのかなというふうに、私は思っております。

そこ辺につきましては、ちょっと室長のほうから答弁をさせていただきます。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

町長が申し上げたとおり、一応、田代幼稚園のほうに置こうというふうに、取りあえず考えておりますけども、これにつきましては商社のほうとどういった形がいいのかというのは、観光協会とかほか関係機関と検討しまして、最終的にどういった形がいいのかというのは決めていきたいというふうに思っています。

ですので、取りあえずは仮にあそこに置いて、その後に、特に観光協会の業務と重なる部分がありますので、そこをどうやって調整をしていくのか、どうやって今後、進めていくのか協議をしながら、今の物産販売所の経営とか、あの場所でのいいのかどうかというのも全てまだ白紙の状態でございます。商社の方のノウハウとかありますので、そこをいろいろ検討しながら決めていくということでございます。以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

田代小学校の幼稚園ということで、なかなかいい場所がありますので、ぜひとも空いているところを使っただけならば非常にありがたいかなあというふうには思います。

そして私は昨日、田代小学校の閉校のセレモニーがあったんですけども、その中で父兄の方が言われてたのが、非常に危惧していたのが、田代小学校を使ったときに、後から出てくるんですけども、今度、加工場を持ってくるということになりますと、大型というかある程度、トラックが出入りすることがあると思うんですが、

保育所がまだ移転してないので、あそこに朝夕、送っていくときと帰りがけ、迎えに来るときに、大型車というか4トンかそこか2トンくらいだろうと思うんですけども、そのところの通行を非常に危惧しているということがありましたので、駐車的に言うておきますのでよろしくお願いしたいと思います。

それから、経営の運営のプロセスでフェーズ1から2までの段階的に観光協会が事業を移していくような形になっております。そして、フェーズ3、令和6年くらいになると、観光系の事業はもう手を引くのかどうかよく分からないんですけども、観光事業だけが産地型商社のような形で残っているような形なんですが、そのちよっと、どういうふうになっていくのかというのをもう少し詳しく説明していただきたい。

それから、下のほうにリバースいすず合同会社になってるんですけど、これ、立ち位置はどういうふうな立ち位置になってるのかということも併せてお願いしたいと思います。

分かりますかね。この図面を見て。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

リバースいすずさんのほうからすれば、結局、指定管理を変えたということでありま

ります。結局、(一社)観光協会のほうでしたのを民間活用ということで、リバースいすずさんは北部産業開発株式会社の別会社という形で捉えておりますが、そちらのほう

がその経営管理をしたいということで、指定管理を今現在、させております。ですので、今まで全て指定管理といいますと、ある程度、町がつくった母体の団

体はその指定管理に入ってきたということではありますが、今回、初めてといいますか、向こうのほうをそのリバースいすずさんをお願いしたということでもあります。ですので、今後、どうするかという部分ではなくて、その部分はその形の中で任

せていきたいと。見とって、いろいろなことで「やはりこうがいいじゃないか、ああじゃいいじゃないか」という話の中で、リバースいすずさんもそういう形になれば、また検討をし直すときはあるかとは思いますが、今はそこはあまり考えてないと。

ただ、(一社)観光協会とこれがいろいろな事務事業というか、やることがバッティングする可能性が非常に出てきてますので、そのすみ分けはする必要があるのではなかろうかと。ですので、(一社)観光協会のほうは、やはり今まで町が持っていた観光協会を法人化かにしたということで、一般社団法人に繰り替えたということでもありますので、そこは定款の中でいろいろな事務事業をうたっておりますので、そこを見直していくと。

ですので、(一社)観光協会が持っている事業を産地型商社に移行するという基本的な考え方は(一社)観光協会は観光に特化したほうが一番いいんじゃないかと。売るとかそういうものに関しては、その産地型商社のほうに移行するというので、しっかりとそのすみ分けをして、「こうですよ」と。

ただ、連携は必要だということでもありますので、そういう考え方をして、やはりすみ分けをして「こうですよ」という部分ではっきりさせていくということが前提になるというか、肝要だと思っておるところです。
以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

先ほどの件に戻りますが、先ほど、私が行った観光協会の補助金は、委託料は經由して渡すのを商社に直接、渡すようなことを、これ、文章として載っておるんですけど、そうじゃないんですかね、これ。

これは結局、補助金はその観光協会を通して商社のほうに回るような形に、私は受け取ったんですけど、違うんでしょうか。ちょっとこのところ、お願いしたいです。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今までふるさと納税の寄附金を扱うときに、いろいろな中間の、例えば、ポータルサイトとかそういう部分の、結局、生産者に戻す、後の2割くらいはいろいろな者が取ると。そこを産地型でできないかということでもあります。

ですので、それを扱う手数料とかそういうものをそこでしていただいて、そこでお金を貯えるというか、そういうことが一番いいのではなかろうかということ、私は理解してるんですが、ちょっと違えば室長のほうに答弁をお願いしたいと思います。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

基本的な考え方としましては、やはり町の将来の財政を考えてこれ以上、町からの負担、こういった観光協会もなんですが、消費者の負担を増やさないということで、最低限、今の支出のままで、それか減らすと。だから観光協会に委託料とか補助金とか出していると思うんですけども、それが減るような形で移行していければ

一番いいのかなということで、多分そういった資料になってると思うんですけども。

商社に委託料がそのまま行くというわけではなくて、商社が受けたほうが委託料とかそういう補助金が減るのであれば、そちらのほうにやはり移行していく必要があるのかなということで、多分そういう資料になってると思ってます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

ちょっと、お互いの取り方の、考え方の違いだろうというふうには思います。最終的に観光協会は別と、商社とは別のような形になって、観光協会は観光協会独自でやはりやり方をしていくということではないのかなと思います。そういう説明を観光協会の会長あたりが説明しているんだろうと思いますけど、私はそのところはまだ聞いてませんでしたので分からなかったということで質問したところでございます。

ここには、ちゃんと町の新たな財政負担の抑制、圧縮というような形で載ってますので、最終的には当然、商社が稼いだ金でそれだけ運営していくというのが、最初の目的からすればそういうふうにならないとおかしいと思うんですけど、それはしょうない。結論から見ても、そういう話になってますので、そういう形をお願いしたいなという気はしております。

それでは、次の質問をしたいと思います。

9月の定例会で、中核人材採用の件、人材はどうなったのかと。

プランでは、11月当初、採用の予定でしたが、地域おこし協力隊2名の募集がいまだに県の移住者クラブのほうに掲載されておりますが、その点について、お伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

地域おこし協力隊という部分で「こういう形で来てください」という話をするんですけど、なかなか今の現状を私もちょっと把握しておりませんので。

【議長 那須 富重】

これは通告に入っていないんですけど、いいですか。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

今の中核人材のほうは、商社の育成のほうはもう終わってるというか、元地域おこし協力隊の方が商社の人材として行くということで決まっております。

あと、多分2名とか上がっている分については、多分、果菓子屋さんの栗加工関係の事業経営者に係る部分の人材と、あと観光協会のほうの人材の募集だというふうに思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

「と、思います」ということは、結局、自分たちがしたんじゃないくて、それは誰がやったんですか。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

今、募集をかけておりますので、県のほうにちょっと、何の資料を見たか分からないんですけども、その募集をかけておりますので、そのことが載ってるんだというふうに思っておりますという、すみません。募集はかけております。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

9月の定例会の中で出たんですけども。

それから、商社のスタッフとして採用なのか、出向なのかというのがちょっと分からなかった。ここに書いてあるアクションプランではなってるんですが、「人材として引き継ぎ、採用となっているが、なぜ」一遍、町が採用して、それをまたその人たちをその商社に出向させるのか、栗処に出すのか、ちょっとそれがよく分からな

かったんですが、そこのところの説明をお願いします。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

追加人材のほうは商社が雇用するという形になっております。栗処さいごうさんが今度、事業継承する果菓子屋さんの事業継承の分の人材については、町の職員として果菓子屋さんのほうで修行されるということになります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

はい、分かりました。

あちこち右往左往するので分からないところがあって、アクションプランはこんな書いてある。最初の当初の予算の説明だところだ、こうだとなっていて、実際のところよく私も分からないような状況で質問してるところがあるかもしれないので、そのところは御了承をお願いしたいというふうに思っております。

それから、消費者設立検討会の経緯というものが載ってたんですけども、その中で、農林振興課は1回くらいしか参加してないと、また、教育課が呼んで一緒に協議しているところもあるんですけど、そのところ、町がちょっと、我々からすれば今後、6次産業化とかいろいろなことをやっていく中ではやはり農林振興課は欠かせないんじゃないかなと思ってから、参加がそんなに少なくないのかなと思ったりしてます。

また、教育が何でこれに参加というか、どういう経緯でこういうふうに参加してるのかと、ちょっとそこのところを御説明願いたいと思います。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

確かに資料としましては、農林振興課と協議したというのは1回となっているんですけども、これは町長と多分、副町長、企画情報課長と農林振興課と政策推進室で、4月27日にも協議しているというふうに思ってますけども、細かい協議会のほうは

度々やってるんですけども、正式に庁内で共有して協議をしたのは1回ということで御理解いただきたいというふうに思っています。

教育委員会が協議に入ってるのは、実は地産地消の部分で給食関係の材料を町内の野菜とかそういったものを活用できないかということで、ちょっと協議をさせていただきました。それも商社の中に組み込めないかなということで、当初ちょっと考えていたんですけども、ちょっと町内の事業者さんが野菜とかは全て扱っているということなので、その事業者さんの経営の圧迫にもなるといけないので、ちょっとそれは今、止まっているんですけども、今後そういった地元の野菜とかを給食関係に使えるかという協議をしたという記憶がございます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

分かりました。

給食なんかも以前からいろいろなところを出してる人たちもたくさんいるので、使ってくれということがあるんでしょうけども、やはり業者さんは業者さんでこのコロナ禍で大変、経営も苦しいので、そここのところを考慮していただければ、またありがたいかなというふうに感じているところでございます。その点は了解いたしました。

それから、「栗で一点突破」となっておりますが、これに至った訳を教えてくださいたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

「栗で一点突破」ということでありますが、最初、いろいろなものの風呂敷を大きく開けても、広げてもなかなか難しかろうという部分であります。ですので、栗でまずどこかの風穴を開けると、そして、それから次の、次の、次のという部分でやっていったほうが一番いいのではなかろうかと。

今、思うことは、その施設園芸等は順調に推移してるというふうに私は思っております。ですので、そこはそんなに今の補助制度の中でいろいろな形でやっていければ、ずっと続いていく。後はそこそこの部会の産地ビジョン等々がありますので、その産地ビジョンをしっかりと下支えしていくということがスタンスでいいのではなかろうかと。

ただ、この6次産業化の中でいろいろな形をしていくと、あれもこれもになると全て倒れてしまうというか共倒れしていく可能性があるということで、前も言いま

したように、昔からこの美郷町に永遠と脈々と続いてきたのは米と牛と栗とシイタケ、そういうものが第1次産業の産品としてあったということでもありますので、行く行くは栗がしっかりとした形になっていけば、次、シイタケをやるとか、そこで開発していくというような形に移していったほうが非常にいいのではなかろうかというふうに思うところでもあります。

幸いにして、「栗で」という部分ではありますが、栗の農家さんも多い、収量もあるという話の中で、かてて加えて栗処さいごうがあるという部分で、生産者の価格の下支えをしております。そして、栗の需要があるということでもあります。

ですので、そこ辺を全て鑑みまして、まず栗でという話にしたところでもあります。以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

一点突破の件は町長の気持ちがよく分かりました。

栗の作付面積は今、13.3ヘクタール、生産者が114名ということで、販売価格が5,428万円ということでもあります。この資料が正しければですけどね。6次産業化の11月の資料ですけど、そこから取ってるんですけど。これが正しければそうなんですけれども。

栗処さいごうの近年の栗の買入単価は690円が標準平均だということでもあります。全国の差が203円ほど高く買っております。県内価格よりもまた124円高く買っているようでございますが、生栗の購入量も近年、昨日聞いたところによりますと、70トン近くで推移しているというような形であります。そのうち町内外よりも10トン近く仕入れてるということでもございました。

仕入れが熊本周辺が多いというような話でどこかよく分からないところもあるんでしょうけれども、商社に頼むから。工場につくまで日数がかかり鮮度が落ち、品質の差が大きいということが若干、問題かなというようなことを言っておりました。地場産ならすぐに、今日、入荷した、皆、持ってきたものを選果してそのまま加工できるということで品質もよく栗はすごくいいものができるというような話を聞いております。

ただし、やはり今の工場では加工がもうマックスの状態であろうということでもあります。まだ、広がれば加工でき売れる可能性もあるそうです。

一番問題なのは、やはり新規作付はどういうふうにするかということなんですけれども、町長としては、その新規作付あたりをどういうふうに見込んでいるのかをお伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

栗の一点突破ということで考えたときに、やはり遊休農地があるということで、一番集落の真ん中辺はおかしいんですけど、結局、中山間の計画に外れてくる山際とかそういうところに農業振興課のほうに栗の植栽ということで、栗を植えていくという話の中で、どういう栽培方法があるのかという話の中でいろいろ検討させて、そういうことを進めていってくださいと。低樹高栽培というか、高くなるとやはり風が当たってるという話ですので、そういう話の中で植えていってもらえないかなあという話であります。

2つの方法があるのではないかとということで最初は思っていました。今の生産者は114戸くらいですけど、その人たちにしっかりと肥培管理をしてもらって増量というか増やしてもらおう。結局、量を増やしてもらおうか、それができなければ新たに生産者が園を増やしてもらおう。それと、新しい生産者を作って新しく栗を植えてもらおう。そういう方法しかないかなあと。

やはり考えてみますと、今までしてる方はある程度のノウハウがあると思いますので、そのノウハウ技術をしっかりと増量を目指してほしいし、後継者をつくらせていただいて、またその増反といいますか、そういう形でやっていってほしいと。

ですので、栗処さいごうさんが買い込む部分については農協経由で買い込むと思いますけど、それにそのとき、そのときの相場だと思いますが、それよりか高くという形になるので、生産者は非常に安定するというか分かってると。どんなに安くてもこの金額は下回らないという部分があるから、安心して作っていけるのではなかろうかというふうに思うところであります。そういう意味では非常に大きな存在かなあと。

そうして栗が集まれば、いろいろな形で県外から取る必要もないと。需要もあるということですので、結局、70トン、80トン、農協に出荷した金額が5,000万円くらいだと思うんですけど、それをまた買ってという部分で、その材料代というのが、その金額では収まってないと。高く買いますので、やはり6,000万円くらいになるんじゃないかと。

栗処さいごうを見ますと、その餡の販売額ですけど1億円近くなるのではなかろうかと。そうすることは、考えていけばやはりどんどんどんどん栗が来て、餡子にして製造して、それを出していけば、どんどんどんどん収入が上がると。結局、栗農家さんにキックバックができるというふうに思います。

かてて加えて、今、栗だけの餡だけの製造ですけど、これが違う意味で6次産業化の中で製品になっていくと。栗のお菓子になっていくという話になると、全く違う風景が見えてくるのではなかろうかと。やはりそこを考えると産地型商社と6次産業化というのはタイアップして合わせていく必要があるし、そうなれば、もう少し変わった形が美郷町の中で生まれるのではなかろうかというふうに思っております。

ですので、栗で一点突破をした次にはシイタケをやろうとか。今、畜産はある程度、もう。畜産農家から言われるのは、もう補助金を変えるなよという話だけありますので、畜産に関してはもうそれでいいのかなと、今現時点では。ですので、後のシイタケとかそういう部分の、お茶もありますけど、それをどうするかと。やはりそういう部分でもともとあった1次産業というか、その産品をしっかりと町の基幹産業でありますので、そこに根付かせていくということ、そしてそこに所得が農家さん、生産者にキックバックされるような形をしっかりとつくっていくということが大切ではなかろうかと、そういうふうに考えておるところです。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

一点突破ということで、そういう感じだろうと思います。

栗で多い人たちは担当300キロくらい取るというんですけど、それはもうありとあらゆる方々がおりますので、ほんの数反つくっている人もおるし、ほんの何畝でちょっと小遣い稼ぎに持って行く人もいます。そういう人が集まるからこそ量も集まるんだらうと思いますが。

1つの問題は、後継者というか作る人ですね。人が問題だろうと思うんですね。やはり辞めていく人が結構多くて、廃園になってる栗園も結構、多いんですね。

例えば、うちの隣のところ辺りに昔のところが三、四反あるっちゃないかな、それは何が問題かと言うと、全然、フェンスがしてないからシシの餌になってしまってるんですけども。電柵では問題にならんもんですから。そういうところの放棄地とか廃園になっているようなところの再活用というのは頭にはなかったものでしょうか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

産地型ビジョン等は産地ビジョンなんですけど、栗の。計画をつくってどう展開していくかという部分で、まだいろいろな部会がありますので、部会のそういうものをしっかりと見てませんが、やはり今から先はその労力を入れずしてといいますか、「桃栗三年」と言いましたけど、そこでお金になる園があればいろいろな形であっせんしながらしていったほうがいいかなというふうには思うんですけど、やはりそのものを作っていただく方々という部分で、1個でも持って来てくださいよという希望が栗処さいごうにはあるということでもありますので、お金がやはり自分の手取りが増えていけば、やはりどんどんどんするんじゃないかというふうには、年でできんかったという部分は別として、そういう人たちも「ほんなら」ということになるかなあと。

そんなに機械が要らないという部分で私は思っております。栗の場合は。軽トラと動力噴霧器があつて防除ができれば何とかなるのかなあという気がしております。

ただ、一番のリスクはその台風時期に遭うと。一番最初の花芽がついて、栗になる、もう少し大きくなった頃に台風が来ると大変なんですけど。結局、そういうリスクはあるものの、そういう再利用という部分で産地ビジョンの中で、そういう形

でどんどんどんどん広げていけるような農業政策というか展開をしていく必要はあるとは思っております。

今さっき言いますように、その肥培管理をしっかりしていただいて、増やすか増反していただくか、新たにまた・・・といった園地を回復するのか、そしてまた新しくするのか、そこそこそれぞれの生産者の考え方を見ながら、やはり推進していく必要はあるのかなというふうには思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

先ほど、町長が言われました栗栽培の担い手育成で新しい栽培技術の試験ほ場を今年また増やすということなんですけども、今、西郷が1か所、南郷が1か所、西郷にまた1か所というような形です。

ちょっと疑問に思ったのが、なぜ北郷もそういう圃場を造って北郷にも勧めないのかなあという気がしたんですけど、そこのところちょっと疑問に思うんですけど、町長はいかがなものでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そこ辺まで、どこでも育てばそういう形でどんどんどんどん展開するのがいいかなあと思うんですけど、そこ辺はちょっと聞いたことも調べたこともありませんので何とも言いようがないんですけど、今後、いろいろな形で、結局、栗の苗木の補助をしてますので、いろいろな形で。そういう要求が出てこないという部分であれば、そういうことの意識がないか、それともこちらのほうの持って行き方が悪いのか、どちらかだと思いますので、今後、そこ辺を検討して。

でも、歩いてみますと、やはりどんどんどんどん買ってくれてありがたいなという話は聞いてます。ですので、放ったらかしとった園が、少しでお金になるならということで、ちゃんときれいになって、そこからおばちゃんが拾って、その長男さんといいますか、家主の方が出荷するという形はある程度、見受けられるから、少しはやはりそういう感覚にはなってるのかなという気は私はしてるところであります。

そういう部分でまだまだ悪いところがあれば、しっかりと検討しながらやっていきたいと、そういうふうには思うところです。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

我々から見れば、旧南郷村辺りがパイロット事業で水清谷辺りを大分、下りたところの左手側のほうを改良しているとか、生コンの上のほうのところの茶園辺りがもう完全に荒れて、せっかくああいうところがいっぱい、割と南郷の地区は高台のほうで改良して植えるような状況のところがあるけどなかなか利用されてない。温泉の近くはちょっとなかなか地質上、難しいという話は聞いておりますけども、そのほかのところは何とか行けるんじゃないかなというふうには思います。

北郷の方に言わせると、高い山がないから、ある程度、あそこ辺りは丘陵というわけじゃないけども、結構、高齢者の方が多くてやはりそれなりの作付もできるんじゃないかなというふうに感じておりますので、これは農林振興課の絡みでやってるんだろうと思いますから、そういうところ如果能したら一緒に三本の矢でやっていただければ、これが一番ベターかなと思うんですけど、そこら辺について、もうちょっと推進していくべきじゃないかなと思いますけど、もう一回、何かありましたらお願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

新規作物をやっていくわけではありませんので、今までやってきた経験の中でそれぞれの考え方があるんだろうというふうには思います。ですので、栗をやった方がハウス園芸をやり、いろいろな形でもうそちらのほうで手がいっぱい、いろいろな形で畜産の増と、そういう形でなってるかもしれませんが、自分の考えとしては、やはり園地を増やしてくださいねという話の中で組み立てて、どんどんどんどん奨励していきたいと。

ですので、今さっき言いましたように、それは無理強いはできませんので、3つ4つの方法があると言いましたけど、やはりそこ辺りかなというふうには思っております。

そして、栽培技術の確立といいますか、低樹高栽培ができれば、そんなに高くはなくてそういう栽培方法が確立すれば、風にも強いし消毒へんも楽になるのかなという気はしておりますので、そういう部分では今後、しっかりとやっていきたいと、そういうふうには思うところです。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

ブレイクタイムはいいですか。

【議長 那須 富重】

区切りがよければ、ここでちょっと休憩を入れたいんですけど。まだ続くようであれば、一旦、区切ります。

【7番 甲斐 秀徳】

まだちょっと。半分、終わったかなあという感じですよ。

【議長 那須 富重】

それでは、ここで休憩に入りたいと思います。

10分間の休憩で、11時10分からの再開とします。

(休憩：午前11時00分)

(再開：午前11時 9分)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

まず、耕作放棄地ですけども、遊休水田の利活用を進めていくとき一番問題となるのが、今後やはり獣害ではなかろうかなというふうに感じております。

そういうことを踏まえて、フェンスの設置や、高齢者あたりが作れるような新しい技術もさることながら、定年帰農者、Iターン、Uターンの若者でもすぐ始められるような考慮があるといいんじゃないかなというふうに思います。

一点突破にあらゆる手段が必要だと思いますが、今後そういうものを含めて、農地のほうも含めてフェンスなんかの設置とかは考えているものではないでしょうか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

何か一つ、こういう形で1つ歯車が動けばいろいろな形に派生していくということかもしれません。そういう期待をしています。

ですので、美郷町内で旧体以前といいますか、そういうものも大切なんですが、新しい形を動かす、そしてそこで、よくおばちゃんたちがいろいろな形で「いろいろ」 という、四国の会社の中でいろいろな葉っぱをと。ああいうものもそういうことだろうと思うんですね。何もしなかったら、葉っぱがお金になるという話はありませんので、結局、そういう何かを起こしたときにいろいろな産業、いろいろな人たちが、ほんならこういうことがあるんじゃないだろうか、こういう形でしようと思うという話の中で連動して行って、そういう産業が生まれてくるし、また見直されていく。そういうきっかけになればいいと。そして、それに対して、町はいろいろな形で応援していくという形のスタンスのほうが、町が「こうしなさい、あしなさい、こうしましょう」と言ったって、今まではそれについてきたかもしれません、その中で、今度は自分たちである程度、考えていきながら、「こういうことをしたいからこういうことを協力してもらえないでしょうか」というような形をつくっていったほうが、私は、今から先の第1次産業といいますかそういう部分は伸びていくのではなかろうかというふうに思っております。

結局、そこで渡世ができる、生活ができる、収入所得を上げることが第一だと思っておりますので、そのためにはやはり町一丸となって応援していくということで考えております。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

先ほど、言いましたように、町内外からやはり10トン近く仕入れているということと、今後も伸びしろが非常にあるということでございます。今、あちこちに出荷してるのが足りないというわけじゃないというような話でしたけども、結構、出ているような感じですよ。

出荷先は大手が3社、商社が10社程度で、あといろいろなところいっぱい出しているというような形で、北海道を除いたほかどんどん出しているような感じだということを知りました。

そういうことで、この足りない10トンを、それを15トンとか20トンくらいですね、また上回るくらいの生産量を増やせば、非常に商社も助かるし農業者も助かるというような形で。一番大変なのはこれを買う栗加工場だろうと思うんですけど、値段がこのままで推移していけば非常にありがたいかなというふうに思っておりますけども、なかなか大変だろうというふうに感じておるところでございます。

ましてや、今度、新しい工場なんかを造ったら、その返済も始まると思いますので、またそういうところが価格に左右されてくると大変、困るなというふうに思っておりますのでございます。

そこで、「桃栗三年」と言いますが、草刈り防除とか剪定などの手間が要りますので、先ほど、町長が言ったようにこちらのほうからの提案をしたほうがいと、町長、行政指導じゃなくてこちらのほうの主導で行けば、私が考えますのは、ヘルパー制度とか、それからドローンなどの防除も今後、ITを使うことも必要になってくるんじゃないかなあというふうに思いますけども、栗に対してドローンが有効かどうか分かりませんが、ヘリコプターとかそういうものも今後、在りかなあというふうに思います。

川村 嘉彦議員が今度、IT化について出しますので、そういうところもあると思いますけども、ちょっとそういうことを、新しい先端農業についての件に関してはどうでしょうか、栗については。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな形の中で、その作物、いろいろな地形に応じてスマート農業という部分で今後、展開されていくのではなかろうかと思っております。

その中で、やはり防除とか、剪定ができる機械ができるかという話はちょっと置いておいても、まず、できること、結局、省力化という部分で考えたときに、そういうスマート農業のほうを導入していくということで考えていったほうが、やはり高齢化と、少なくなればやはりそういう形で考えるのが自然かなあと思っておりますので、できる限りどういう形がいいのかというのは、やはりその部会と考えながらやっていきたいと思っております。

分からないことが多々ありますので、やはり生産者の方と、どういう形のほうがいいのかという部分はひざを合わせて話すほうが一番解決策になるだろうと思っておりますので、スマート農業の展開は今後、やはり中山間地域においても喫緊の課題にはなってくると、そういうふうに思うところであります。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

近くて遠いような年数なんではしょうけども、やはり先を見越したときに、高齢化になってくるリスクが高いので、そういう取組をする人たちも大変だろうと思っておりますので、やはりそういういろいろな機械を使って省力化していくことが一番必要であろうし長続きする方法かなというふうに思いますので、そういうことも併せて町のほうとしても協力方をお願いできればなというふうに思っております。

それから、ある農家からの提案なんですけども、「宮崎県内にも栗の産地がたくさんあります。西米良村、日之影町、高千穂町、今からでも頑張ってください栗の

一大産地を目指してほしい」と、「目指して頑張っていただければありがたい」という言葉を頂きました。

これについて、町長はどういうふうに思われますでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

日之影という部分とか西米良、高千穂町、栗の産地ということではありますが、それに割って入っていける様相は十分あると思っておりますので、一大産地の形成という部分も魅力的な部分ではありますが、やはりそこではなくてお金にするという部分ですね。これがやはり一番じゃなかろうかと。

宮崎県が30年間、「素材生産業、丸太で日本一です」と言ったときに、そこじゃないっちゃんないかという話ですね。やはりお金にしたときどんげなるかという部分で、やはりお金になって生産者にどれだけ還元ができるかということをしかりと考えていくほうがいいんじゃないかと。

生産地で一大生産地になって産地になっていくのも目指したいとは思いますが、それよりか、栗によって非常に所得というか収入が上がったと、そういうことが実感できるようなこの取組にしていきたいと、そういう気持ちのほうが今のところは強いということでもあります。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

分かりました。やはりそういう考えならば、それと一緒に地域の盛り上げも進めていければいいかなというふうに思っております。

この問題について最後にお聞きしたいのは、産地型商社をつくることによってどれほどの雇用創出があるのかと。また、どれほどの売上げ予想を立てているかということをお尋ねしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その産地型商社をつくることで、その雇用の創出というかその商社自体ではそ

んなに雇用は生まないのかなあと。

ただ、それに付随するいろいろな産業といいますか、栗とかそういう部分については、やはりある程度の雇用が見込まれると。だから結局、作っていただく生産者も含めて、その雇用の拡大というか、結局、自分たちが社長ではありますが、その人たちがもう一回、栗の一大産地を目指すぞという気持ち、今さっき議員おっしゃいましたけど、そういう気持ちになれば、またそれも雇用かなというふうに思っておりますので、何かを作るからそこに人が集まってということではなくて、何かを作ったことによって、その1次産業が動き出す。そして、雇用が生まれる。いろいろな形で今度はIターン者、Uターン者そしてもろもろの交流人口が増えていくということになればそれにこしたことはない。そのための起爆剤と位置づけたいというふうに思っております。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

そういうことで、一つその件に関してはよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、栗の一次加工について、お伺ひしたいと思ひますけれども、拠点施設として田代小学校を活用することということになっております。廃校を利用させていただけるというのは大変ありがたいと思ひしております。これを機に、各種いろいろな事業者が教室を利用させていただけると、また大変ありがたいかなというふうにも思ひしております。

今度、出ているのが栗処さいごうの施設整備がメインであると思ひますが、今の施設が狭いとのことです。製造ラインの老朽化と今後のラインの効率化、衛生管理を国際基準にすることにより、さらに外郭の獲得もできるということでございます。量もラインができるとある程度は伸びるんじゃないかというふうにございます。村の果菓子屋、お菓子の製造の新メニューにも期待したいというふうにございます。

アクションプランによりまして、拠点設計検討も既に終わっているはずでございます。どのようにして基本設計が、12月の定例議会で484万円8,000円でありましたが、今後、この概要を踏まえて全体の構想それから校舎利用の概要なども分かりましたら、お願ひしたいと思ひます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員さんの御理解によりまして、委託料を上げさせていただきました。この設計を基にして、田代小学校の体育館ということでございます。

昨日、それこそ議員おっしゃいましたように閉校記念碑の除幕式典がございましたけど、体育館に行ったときにどういう形になるのかなという部分では、まだ設計書を見ておりませんが、ここがそういう形になっていくということでは実感はしているということでもあります。

ですので、今度、それに向けての工事ということになります。結局、現栗処さいごうは旧西郷村が設置したということでもあります。その中身については、設置目的というそういう部分は御案内のとおりであります。現在、やはりどうしても食品ですので非常に難しい、今の場所では。そして、今の製造のものでは難しいということでもありますので、やはり今さっき言うように一点突破を目指す。そこで所得を上げる収入を上げるということを考えますれば、やはり量も増やしていく必要があるしという部分で考えております。

ですが、やはり労働力不足等もありますので、一部そのライン化を作って、それにも対応できるような工程という部分は考えていくべきだろうというふうに思っております。

一番大切なのはやはり安全という部分で、保健所からの許可もなんですが、衛生管理といいますか商品管理というよりも、やはり今から先は国際基準のHACCP（ハサップ）だろうと思っておりますので、そのHACCP（ハサップ）も認証できるような施設にしないと太刀打ちできないのではなかろうかというふうに思いますので、やはりそのHACCP（ハサップ）の取得というかそういうことを踏まえた中での施設という部分を考えていきたいというふうに思うところであります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

基本設計はそういうことであると思うんですけど、今議会の栗加工製造施設整備事業、設計委託料が1,070万8,000円を予定されております。

この概要はどういうふうなところまで踏み込んでくるのかなというのがちょっと疑問に残るところでありますので、これも含めてお願いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

基本的にはやはり今、栗処さいごうさんがやっているような形になるかと思いますが、またそこ辺の詳細については私も少し分からない部分があるというか、室長のほうに答弁をお願いしたいと思います。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

現在、まだ基本設計の段階で、一応、配置とかどういった機器を入れるのかというのは大まか決まっております。

今、その金額の積み上げをしておりますので、まだその金額のほうも出ておらないという状況でございます。

ある程度の配置とかが決まりまして、それを基に実施設計を詳しい詳細な設計を実施設計で行うという形になりますので、今はまだ国のほうに事業申請するための基本設計の金額を今、出している途中でございます。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

まだ基本設計ということだそうですけども。ある程度のパターンはできているだろうと思っております。すり合わせも今、随時やってるんじゃないかなというふうに感じておるところでございます。

これは矢継ぎ早に、また、6月議会では施設関連予算を計上していく予定だろうというふうに、このアクションプランでは思っているところですけども、今後、最終的にはどのくらいの予算的に思っているのかなというのをお聞きしたいんです。政策推進室長がこの前、話したのとは大分、桁が違ってきてちょっとびっくりしたような状況ですので。ざっくりばらんでいいです。後のはどっちにしても今後、特別委員会のほうでみんなのほうも説明を求めると思いますので、ざっくりばらんでいいですけども、そこのところをよろしくお願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ざっくりばらんでということで積み上げが最大にすると4億円くらいかなということ考えていますけど、それから絞り込んでいくと、やはりそこから落ちてくるのかなあというふうに思っております。

ですので、いろいろな国庫事業等を入れましてやっていきたいと。その設計等々

がほんならこうですという部分ではっきりしなければ、詳細な金額というか、これだけですという話じゃなくて、アバウトで4億円強、弱、そこ辺になるのではなかろうかというふうには思っておるところです。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

4億円ということで、今、すり合わせを多分、それも含めてやっているんだろうと思いますけれども、その中から削り落として削いでいってある程度の形になると。

だけでも、やはり国の補助は何%くらいの補助率があるのかというのが問題だろうと思うんですよね。その中で、栗処も支払いのほうが出てくるだろうと思いますけれども、やはりそれなりの、あんまり大きく作ってもやはり大変だろうし、といって小さ過ぎても困ると。今後の生産を含めた意味から見たらなかなか悩ましいところではないかなというふうに思っております。

今度のは、全てこのラインも含めて移動費全て、例えば、冷凍庫とか全てのものを含んだ状態で6月の予算に上げるのかなというふうに思っておりますけど、そのところはどうなるんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

国の事業は半分という形で考えています。

ですので、圧縮してどのくらいになるか分かりませんが、4億円としたときに2億円という形であります。その2億をどうするかというのは、今後の検討でもありますが、町が起債等々をいろいろなものでやっていくしかないのかなあというふうに思っております。

大きい小さいかというのはそれぞれの考え方によりますが、補助金を昔、起業するときに2,000万円出しましょうという話をして、今、1,000万円なんですけど、大きい起業をするとき。そのときに、議会さんから、「それは出し過ぎじゃないか」と。その前の言われ方は、「100万円、200万円出しとってもらえないじゃないか」という話だったもんだから、そういう補助金を使う。

今、聞くと、そのときに非常に喧々諤々あったんですけど、そういう形で起業した方々は非常に若い方だと。ブローラーでもそうなんですけど、そういう方々たちがいっぱい頑張って、しっかりとした成績を上げてるということに鑑みすれば、大きい小さいかという部分で議論すると非常に問題はありますが、今度どう展開していくかという部分で考えたときには、そんなに高いものではなかろうというふう

に思っております。

それなら今の施設を展開する中で、維持費といいますか修繕費、いろいろな形が発生しますので、そこをどんどんお金を入れて、それならどこまでそんな形でやっていくのかという問題も出てきますので、私の場合は今さっき言いましたようにそういう生産者、いろいろなことを含めながらこういう形で頑張っ、一点突破でやっていき、次につなげるという考え方をしたところであります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

4億円ということでございますが、2分の1の補助をという形でありますけれども、今、いろいろな方々の話をすり合わせてみると、これは駄目だ、あれは駄目だ、どんどん小さくしてるということを知りました。

ただし、やはり使えるものが使えるということで、持って行くというような形だろうと思っておりますけれども、せっかくだったらやはりあるところをつけて金をかけるだけかけてするならば、ぴしゃっとしたしたものを作っていたいただきたいなというふうに思っております。

後戻りはできないから、そのためにはやはり一点突破ということも踏まえ、全てが順調にいかなくやいかんもんですから、やはりそのところを考えて、今後の産業の発展のためにもやっていったらいいんじゃないかなと思っております。

先ほど、言いましたようにブローラーあたりも1億とか何億とかやはりいろいろな補助をしますから、その点を考えれば、やはりできることは、せっかく古い機械だったらもう入れ替えていくというような形で設置するというような形のほうがいいんじゃないかなあというふうには思っております。返済するほうは大変でしょうけれども、それなりの価値と今後、増産等、売れることを見れば、そのためにも商社ができるんだからやはりそういうことも踏まえてやっていったらいいんじゃないかなというふうに思っておりますけれども、再度、町長の考えをお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ありがとうございます。金曜日なんですけど、園田議員から、「産業振興基金があるのではないかと」と、やはりその産業振興基金なるものは持つておくだけでは駄目じゃないかという話であります。やはり今、有効に使うためには、そういう補助整備もやる必要があるということありますので、やはり産業振興のために今まではそういうことはしてませんでしたけど、今からはという話になると、やはり少し変え

ていく必要があるというふうに思っておるところであります。

ですので、そういう方向に向かって、結局、スマート農業という部分で進んできてる時代でありますので、それにマッチした、やはりH A C C P（ハサップ）を取得しながら、美郷町の栗は本当にいいねという話になれば、もう投資価値は十分にあるのではなかろうかと。それに製品が出てきていろいろな形でふるさと納税が増え、町民の生産者の方々にキックバックできればそれにこしたことはないと思っておりますので、精いっぱい努力して、みんなと力を合わせてやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

今までの雇用を維持していくためにも、非常にこの栗加工施設は必要じゃないかなというふうに思っております。また、町の産業に対しても非常に有効な手段だろうというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいというふうに思っております。

それでは次に、ふるさと納税の今後の件なんですけども、今後、伸び率をどのように分析しているのかということをお伺いしたいんですけども。

寄附額を伸ばすには、さらなる栗商品とかいろいろな拡充を図る必要があると思いますが、何かいろいろな手だてを考えているかということをお伺いしたいんですけども。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今の在りようとか今の製品といいますか、今の形では頭打ちかなあと。これ以上は伸びないのではなかろうかというふうに思っています。

ですので、今言いましたように、やはり栗の製品とかそういうものを作っていかなければ、やはり頭打ちになるということでもあります。

私は、6億円という頭を持っていたんですが、政策推進室の考え方であれば、令和2年度実績の150%ということでもありますので、7億円ということでもあります。7億円が頭打ちというか、頑張れる限度ではなかろうかという話ではありますが、これはあくまでも目安でありますので、8億円、9億円、10億円という形の中でやっていけばいいと。そのためには、やはりそういう製品を作っていく。そういう形になっていくと。

ですので、栗で製品を作り、なばで製品を作りという話になれば、まだまだ伸び

しろがあると。しかしながら、ふるさと納税制度がどこまで続くのか分かりませんので、今度は逆に、製品で勝負するようなものを作っていかなければ太刀打ちといえますか、どう転んでも大丈夫なような形にしていく必要は出てくると思っておりますので、一応、7億円ということで、7億円以上を目指すということでもあります。以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

7億円以上を目指すということですので、1つの目安じゃないかなというふうに思いますので、いろいろと知恵を出しながら頑張ってもらいたいなというふうに思います。

町長がいつもこれを載せているんですけども、再投資できるように、全てがうまく回るような状況が、理想ですけども。そのためにはやはり人の知恵も出さないと金も回らないんじゃないかなというふうに考えております。そのために、人材というのはどういうふうに考えておるかということをお聞きしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

中で人材を育てる必要も出てきますし、そしてまた、職員も育てる必要はあります。そこで、「足りない」と言ったら御幣がありますけど、やはりいろいろな形で町外からそういう人を求めていく。やはりそこ辺の知恵は借りたいと。そういうふうに思っております。

時々思うんですけど、大手企業が副業という形をつくっておりますが、その副業の中で専門家を出すということで、いろいろなノウハウを持った人たちがいますので、そういう人たちの知恵を借りながらやっていく必要もある。そして、その中で職員を育て、若手の経営者をしっかりと下支えしていくという形のスタンスがよからうというふうに思うところです。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

再投資できるように、人と知恵と金、これが一番の問題ですので、今後そういうふう努力していただければありがたいかなというふうに思っております。

最後に伺いますが、今回の構想に町長の政治生命をかける覚悟があるのかをお聞きしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろなことを以前、話しましたが、やはり町民に傷みを伴うこともやってきました。そして、これから先、こういうこともやろうと思っております。いつもかけてるつもりですので、批判が必ず出てくるということでもあります。

でも、批判ばかりを気にして何もやらなかったら、私はおる必要はないと思っておりますので、それは批判覚悟、政治生命といいますか、次に選挙がありますので、そのときの判断がそういうことにつながろうと、それは仕方がないことではなかろうかと。それは町民の付託を得なかったということ判断すればいいということでございますので、私はいつも政治生命をかけてやっているつもりであります。

ですので、この4年間の最終的には判断は町民がするものと思っておりますので、それに対しては何ら考えるところはありません。

やはり変えていくということの方向性といいますか、旧体以前では駄目だという部分の中でやってきましたので、そう思うところでもあります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

分かりました。来年の結果を待ちたいなというふうには感じているところであります。

最後になりましたが、次に移ってもよろしいでしょうか。

【議長 那須 富重】

2問めの質問を許します。

【7番 甲斐 秀徳】

次の、農林業作業機械の安全指導についてを議題といたします。

農林省が3月1日から5月31日まで展開する春の農作業安全確認運動の啓発を、今、防災無線で行っているところで、大変、ありがたく思っております。

林業従事者は、朝礼などで安全確認はほぼ毎日、行っているものと確認しております。また、各種機械の安全講習も受けられていると思いますので、今回は農業に限定させていただきたいと思います。

春になり、徐々に農作業に入り、それを機に農作業事故も発生します。

今回、東白杵南部農業改良センターから資料を頂きました。農作業の3つのパターンがあるということでございます。

1つめは、集中して発生している農機具があると。

2つめは、高齢者の死亡事故が多い。

3つめに、他産業の事故は減少しているが、農作業事故は減っていない。

ということでございます。宮崎県の農作業死亡事故の推移を見てみますと、平成18年から平成25年までの平均は13名程度になっておりましたが、平成26年から平成28年は8名程度になっております。事故そのものは増加傾向であります。農作業の負傷事故は若い人に多いということでございます。

当町においては、農作業事故はここ近年、あったかどうかというのをお聞きしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

農作業の事故というのは聞いておりません。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

農作業の事故というのが一番手っ取り早いのは草刈り機が一番多くて、その次にトラクターとかコンバインとかチェーンソー、耕運機といろいろなものがありますが、事故の6割を占めてるそうでございます。

1つは、やはり高齢者が多いということですので、1つの警鐘を鳴らしていると思います。そこにまた打って出たかのように、高齢者は熟練者ですけども、その割にはやはり身体機能が衰えているということで、認知判断、操作の能力低下があるということでございます。

また、そういうことを踏まえて、農機具の安全講習などを行う必要というか、いろいろな啓発をする必要があると思うんですけども、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな形で啓発、うちは防災無線等を通してやっていると。そして、それぞれの中での講習というか、それは義務づけられている部分もありますので、そこ辺でしっかりと講習していただきたいというふうに思っております。

また、ギャップの中で労働安全という部分も出てきておりますので、やはり安全に仕事をしていただきたいというふうに思っております。

ですので、日頃からそういうことで周知徹底をしなければならないというふうには思います。確かに高齢者が多いという部分、機械を使う作業が多くなったということを考えますと、そういう形になるかなと思っておりますので、今後ともその労働安全といえますか、その作業安全の確認等々は周知徹底してまいります。

以上です。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番、甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

機械の農作業事故も当然ながら、今後、今、農林省の中継を見ますと、熱中症が多いと、多くなったということで捉えておりますので、そういうことを踏まえて今後の啓発はしっかりしていくべきかなあというふうに思っております。

宮崎県のいろいろなところの分析も出ておりますけども、令和3年度農林水産省が出しております安全作業の安全確認あたりも徹底していただいて、ますます広報とかラジオなんかで、無線で流していただいて啓発をしていただければありがたいかなというふうに思っております。

以上で、私の質問を終わりたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおりうちの防災無線の稟議書を見てみますと、やはりそういう形で周知徹底しているということで、また、熱中症対策のためとかそういう形の中で防災無線で出していると。

ですので、今後も事あるごとに「気をつけてくださいね」という形ではやっていきたいと思っております。

以上です。

【議長 那須 富重】

これで、7番、甲斐 秀徳議員の質問を終わります。
ここで休憩に入りたいと思います。
再開を13時からの再開といたします。

(休憩：午前11時45分)

(再開：午後 1時00分)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。
次に、8番、森田 久寛議員の登壇を許します。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

それでは、通告に従いまして今回、1問、町長にお伺いをいたします。

この表題に書かれてある町道、林道のいろいろな管理・方法につきましては、今まで私が記憶している限りでも3名か4名かだったと思うんですが、同じような繰り返しになること非常に申し訳ないというふうに考えているんですが、それだけ道路についてそれぞれ住民たちが関心が高いんだと、それだけ要望も多いんだというふうに御理解を願いたいと思います。

それと、なかなかしゃべるほうはあまり得意でございますので、写真を少しだけつけておきましたので、話の中で、できれば参考にさせていただけたら幸いです。

それでは、早速、入りたいと思いますが、町道の管理については、町内の建設業者にそれぞれ委託し、梅雨あるいは台風シーズン前には側溝の掃除、また災害には担当の業者がライフラインの開通に対応していただき、住民の負担がほとんどなく喜ばれているところでございます。

そこで、何点かお伺いしますが、最初に、各町道の指定業者については、毎年、変わってきていただけるわけですが、そのときの業者の選定方法は町でどのような仕組みで指名といいますかね、選定をしてるのか、まずそこからお伺いをいたします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは、町道・林道の管理についてということではありますが、町道・林道の管理業者の選定につきましては、南郷地区、西郷地区、北郷地区、それぞれに管理する区域を設定しまして、区域内の路線を町内の建設業者に委託し整備を行っているところは御案内のとおりでございます。

管理区域は、南郷・西郷地区を5の区域に、北郷地区を2の区域に設定しまして、区域ごとに作成しました設計書で見積り依頼を行い、契約の相手方を決定しております。この方式ではありますが、県の各土木事務所が国県道の維持管理パトロールを展開するに当たりまして、民間に委託している業務を参考にして、この区割りの中で業者を決定しているところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

分かりました。

それでは、もう一点、お尋ねしたいのは、例えば、以前からですが、担当者に聞くと、集落間の間はその地元の方で管理をしていただきたいということをお願いし、ほとんどの管理をその集落間をやってると思うんですよね。

しかし、高齢化が進むとなかなかできない地区もあるということで、「管理ができないところはどうするんですか」というような質問をしたところ、大分以前ですが、担当者の方が「それはやはり町のほうで管理をさせていただきます」というふうな答えが返ってきたわけですね。

それはそれでいいとして、その場合にはあれですかね、その区間というのは予算をつけてないというふうに聞いてたんですが、町が管理するということになれば、その集落間の間もいわゆる予算を距離に応じてつけるわけでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

原則として、その集落内はそこをお願いしますねという部分でお願いしてるところではありますが、もし、そういうことでどうしても維持ができないということであれば、考える必要が出てくるのかなというふうに思っております。

その予算立てというか結局、業者にメーター幾らという話での契約じゃなくて、ちょっと考え方を改めてといいますか、そこ辺はちょっと違うような形になるのかなあというふうには思いますけど、今のところそういう形では全然しておりません。

例えば、上区なら上区の皆さんにこの集落をお願いしますよという形では取ってないと思いますので、そこ辺はもしできないということであれば、考える必要はあるが、その予算のその区間の委託料といいますか、それについては今のような契約の方法ではちょっと無理かなあという気はしておりますので、そこ辺はちょっと建設課のほうで聞いて、振りたいと思いますので、建設課長のほうから答弁をさせていただきます。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

お答えします。今の集落間は本当に道路愛護作業とか除草を行っていただいております。私どもが今、メーター当たりのこの単価を算出する上で、国の基準となる労務費があるんですけど、それに基づいて1日何時間かかるよということで算出しております。

議員も御存じのとおり労務費も年々上がってきまして、ちょっと苦慮してるところではあるんですけども、一部分だけですけど、集落間も除草してるところもございまして、今後、考えていく必要もあるのかなとは思っておりますけれども、幾分、道路愛護というもので何が何でも町でやってしまうと、町民の愛護ボランティアですかね、そういったやつも啓発していきたいと思っておりますので、今までのやり方といいますか、従前のやり方で当分は行っていきたいとは思っております。

以上です。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

分かりました。それと、道切り、大体、以前からそういうことだったんですが、例えば、側溝の掃除、落ち葉が落ちた今とそれから梅雨前とか台風シーズン前には必ずその業者が来て上げていただいているんですが、そういうところは地元の要請があつてか、それとも建設課がそれぞれ担当者がしょっちゅう見回りをして、掃除をする必要があるという場合に掃除をしているのか。

それとともに、そのときの予算のつけようですね、その業者に対する、それはどのような予算づけをしているのか、お聞きいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その辺の臨機応変という形ではないと思いますけど、建設課長のほうから答弁をさせていただきます。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

側溝及び溜樹の泥だまりとかは、現場への行き返りのパトロールの際であったり、もちろん住民の方々の御連絡によりまして対応しているところがございます。大体気づけば、台風前に気づけば、そこは上げるようには十分、しております。

この予算というのは、西郷、南郷、北郷というところで年間幾ら、幾ら、幾らと決まっておりますので、その地区を流用というか、そこを絶対大事なところを重点的にやるような感じで、お互いのところをカバーし合いながら予算をうまく使っているような流れでございます。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

そうですね。それだけ巡回していただけるのできれいに掃除ができるんだらうと思うんですが、それと私が聞いたかったのは、例えば、側溝、業者が上げるでしょう、そのときに、これだけの距離をするから時間がどれだけかかったから、予算をこれだけつけるとか、そういうような区間、区間で予算をつけてるのか、それとも1年を通じてそういう予算見積りをして、いち早く業者に行かせるのかと、そういう点を聞いたかったんですが。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

予算につきましては、長年の、今まで10年近くやってるんですけど、その経験値に基づいて大体、予算をつけてます。

あくまでも私どもは、側溝上げあたりは先ほども言いましたけど、日向土木にならってその歩掛等をつくっておりました、何時間かかったよということで算出しておりますので、一概にちょっと言えません。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

大体、分かりました。

それと、もう一点、聞いたかったのは、台風シーズンで災害が起きた場合には、その担当の指定された業者というのがいち早く重機を搬入してライフラインの開通に懸命に頑張っていたいただけるわけですが、そのときはやはり同じように別に予算を設定して、その業者に支給するわけでしょうか。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

台風前にはその都度、補正等もありますので、それとか、どうしても補正が間に合わないときには予備費とかを利用させていただいております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

要するに、そういうかかった費用を業者と話し合っただけで予算化するということでしょうね。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

「話し合っ」ではないんですけど、これ、3か月に1回くらい、すみません、3か月にその請求を上げていただくようになっておりますので、その積み重ねで請求をいただくと。

ただ、「業者さんと話して」というのはありません。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

大体、聞いていたとおりで安心したんですが、もう一点、お聞きしたいのは、業者が道切りをする場合には、やはり8月の盆を基準にして7月いっぱいまでには切ってしまうと。

ところが、地元の方が道切りを管理する場合には、田植が終わってすぐとか、だから6月中に一度、切ると思うんですよね。そうすると、業者が道切りに入ったときには、かなりまた地元が切った場所が同じように背丈が伸びてるところが多いと思うんですよね。その場合、業者さんはそこをずっときれいに管理内も切っていく業者と、見て見ぬ振りをしてそこを通り越していく業者があるんですが、その折には切って、改めて切り直した業者に対してはやはり何か別の手当とか何かをつけるわけでしょうか。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

基本的には1回切りでさせていただいております。

ただ、二度切りも必要なところもあるもので、そういうところの路線はあるんですけども、今年もちょっとやったんですけど、二度切りじゃなくて除草剤を、無害であるやつをまいていこうということで、試験的に、2年前からですけどもやっております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

除草剤という問題が出たんですが、以前、除草剤を使用した経験が3年ほどあったんですね。ところが、やはり除草剤を利用すると、のり面の壊れとか、それとやはりいろいろな面で害があるんじゃないかなろうかといって除草剤を禁止したんですが、何か特殊なそういう害のない除草剤というものを使っておるわけでしょうか。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

一応、無害であるじゃないけど、田んぼ周辺に近いところはもう絶対、使ってないんですけども、それにしても無害であるというものをネット等で調べまして、それを使うようにしております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

分かりました。

それで今回、道切りの関係で町長に要望したい点の1点を今から述べてみたいんですが、町が基準とする道切りの基準ですよ。それは前からやってるとおりのりの1.5メートルくらいまでを基準にして切っていただくということなんですが、それが今後ずっとその基準で行っていく考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

1.5メートルですかね、のり側が、路肩、こっちがあれば50センチメートルということで決めてますので、それでやってきたし、これからもいろいろ意見があってもう少し上からという話もあるんでしょうが、今のところそういう形では行けないかなあというふうに思っているところです。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

もう本当、きれいに切っていただけるわけですね。

ただ、実は最初、道を造った当時はのり面の木も小さいから全然、支障はなかったんですが、中央から遠い私たちのような地区辺りになりますと、町道でもほとんど1車線なんです。そうすると、何年も、5年以上たちますと、のり面の木が大きくなりまして、大きくなった分はいいんですが、それから貼り出す枝あたりが物すごい、町道まで覆いかぶさってくる関係上、今、トラックなんかも昔と違って11トンの大型で木材を搬入しますよね。それとかマイクロバス等が来たときに、非常に運行に支障を来すことが多いという不満があったんですが、今後、そういうような地域というのはほかの地域からそういう暗くなって支障を来すといういろいろな要望というのは、どうかしてくれないかという問題は起きてないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

実際に私のほうには、私が聞いたというかそういうことはありませんので、建設課のほうにそういう要望が来てるかどうかという部分は建設課長のほうから答弁をさせていただきます。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

お答えします。電話のほうは、そう要望はございません。

たまにあるんですけども、そのときも変わらず民有地、個人の方が持つておられるところは個人さんでお願いしてるんですがということで対応させていただいております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

実は、もう最近、昨年、一昨年あたりから非常にそういう私たちを含めて区長さ

んそれから議員さん、いろいろ話し合う機会があるんですが、どうしても道が非常に暗くなって、表面はいいんだがそういう支障を来す場所が多いので、これを何とかできないかということ、恐らく区長にも町のほうに要望したらということ、今まで何回も言っていたんですが、なかなか実現できなかったのは、やはり予算面とかそれから業者の関係もあると思うんですね。

それで、写真にちょっとつけたのは、私たちの地区で昨年から区長さんを中心に、とにかく自分たちの通る道路だから、通りやすい道路を造ろうということで、出られる者だけ、元気な者、ボランティア的な精神でお願いしたところ10名ほど集まったわけですね。

それで、高さをケーブル線とNTTの電話線がありますが、そこを基準まで切りましょうということで、労働基準法に反するとは分かってたんですが、タイヤショベルの上に1人乗って、下刈り機で切っていくと。ケーブル線までというのは、最近、ケーブル線あるいはNTTの線に木が触ってるものですから、そこをネズミ等が行って、被覆を食べるそうです。そうすると、今までに年に3回ほどずつ「テレビが急に入らなくなったのでどうかしてくれ」というような要望があって、原因を見たら、ネズミの被害が多かったということで、思い切って切り始めたんですね。

その上に、2メートルか3メートル上に電線が通ってますよね、電柱。そこは九電がお金を出して、木が触ったらすぐ切りますけど、その下にどんなに障害があっても、九電というのはやはりそれ以外に切ったらいけないんでしょうね、そこだけしか切らないもんですから、非常に見苦しいということで切り始めたんですね。

それで、集まったのが10名、朝の8時から夕方4時まで頑張っても約1キロから1.5メートルまでしか作業を進めることはできませんでした。

私たちにそういう町道と名のつく距離が約15キロくらいあるわけですね。単純に計算しても、あと10回くらいは出なければならないと。

それで、経費を考えても、やはりタイヤショベルのリース代それから燃料代、合わせて人の労務費まで考えると、今から150万円以上はかかるんじゃないかなということで、一応、私も町のほうに少し予算要求をしてみましようかという話をしたんですが、今回は、「自分たちの道路は自分たちでやるということから始まったので、予算要求の必要はありません」というのが地元の方々の意見だったんですね。

しかし、私のところはともかくとして、ほかの地域にもそういう場所がいっぱいあるんじゃないかと思うんですね。そういうようなところを少しでも対応するための何か打開策という考えはないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ありがとうございます。こういう形で切っていただいて、ケーブルが鳥獣害の被害に遭って寸断されてどうのこうのという部分が出てきておりますので、その部分が回避されてるということに對しまして、それと道路の安全性と。

毎年することでもないというふうには思っておりますので、やはりそういう地域の部分を見て、1.5メートルだけはそういう部分が解消されないということであ

れば、毎年、毎年、伸びてケーブルまで行くかという部分はないと思いますので、そこ辺をその集落内においてもちょっと見て、調べて、やはりこれでは後々、そのケーブルの被害とかそういうことを考えながら、ちょっとこちらのほうで時間を頂いて、それをどうするかと。

今は、上区の場合はそういう形でボランティアでしていただいたけど、できない部分、それもやはりずっとボランティアでという話でもないでしょうから、やはりそこ辺は統一して予算立てして業者に任せるとか、いろいろな形でそういう部分を阻害要因を取っていくような手だてを少し時間を頂いて考えるということにさせていただきますいなと思っております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

どうかよろしく、その点お願いしたいんですよね。

というのが、やはり前はほとんど地元で町道の管理というのはしてきましたよね。途中で止めたのは、業者に出す予算と地元の方々が切る予算にかなり差があるということ、ある担当者の方からちょっと間接的に聞きまして、「じゃあ、それなら何で同じ仕事をして業者よりも高く切って、整備するのに差があるのかな」ということで、皆さん、やる気をなくして止めたんですよね。ここ辺、そういうことがあったんでしょうか、地元の任す予算と業者に頼む道切りの予算というのは違ってたわけでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

私が知ってる限りといいますか、業者に単価契約でという話でしてましたので、結局、その地域に任せるとかそういう話はあったのかもしれませんが、私の部分ではそういう認識がないと。建設課長がその前、どうだったのかという部分が分かれば、建設課長のほうに。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

平成27年10月に、区長会を通じて「地元でできないか」ということでアンケートを行ったということで、そういうものを見つけまして、その大半が「高齢化により労働力がない」ということであつたわけなんですけど、1地区だけやった経緯があつたそうです。

そのときの単価の差というのが、業者さんの写真等とかよく撮っていただくものですから、管理もしていただけます、除草は。(のり長)×(延長)で、何ぼ切つたんだということで証明を出してもらおうと。諸経費をそこで含んだ単価で出してるんですけど、地元のほうには諸経費を含まない単価でお願いしてたということになります。

以上です。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

分かりました。先ほどは、私も「地元で予算は要りません」という言い方をしたんですが、できるなら、同じように思い切って切ってしまうという気持ちで今年1年やるということになれば、高いところまで切つてやると。

町道としての1つの基本的な道路ということを目指して頑張つてみたいと思うんですよね。そういうところがあるならば、やはり予算を追加してでも管理費として用意することはできるものではないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それは可能であります。

ですので、ずっと見て回つて、そういう1.5の上の部分、やはり差しかかるといふ部分で。グリーンカーテンみたいな形になってしまうと、いろいろな形の車が通りづらいということでしょうから、そこ辺を見ながら予算立てをして、またそれは補正か何かで上げるしかないということだと思います。

ですので、全ての町道がそれに該当するかという部分じゃなくて、やはり全然、「全然」と言ったら語弊がありますが、あまり使わない町道をそういう形にしてもやはり無理があると。27、28いろいろな形で維持管理、町道林道合わせて1億円超したという話で、そこはあまり利用していないところまでいびつてそういう話という話になると、今度はまた無駄が出てくるということでもありますので、そういう使う町道において、そういう差しかかっている。そしてまたケーブルに支障を及ぼす、それがひいては台風等で倒木してそのケーブルやらを切ってしまうという形になる可能性もあるというような部分については、ずっと建設課のほうに見てもら

いまして上げることは可能だというふうに思っております。

そのときも、やはり業者、そこを取ってる業者というか、お願いする業者に出していくほうがいいのかなど。これを「ここでお願いしますね、こんげって出しますので」という話は絶対、事故等がありますので。

ですのでやはりそういう仕事や契約で地元のほうにはお願いしないほうがこちらとしても一番楽かなあと、そして心配をしなくていいということでございますので、そういう方法を取らせていただきたいと。

【 8 番 森田 久寛 】

議長。

【議長 那須 富重】

8 番、森田 久寛議員。

【 8 番 森田 久寛 】

町長のおっしゃることもよく理解してるつもりです。

ただ、地元の人がそういう作業をする大きな利点というのは、業者がしますと、片づけた残木ですかね、それをなかなか、滅多なところには捨てられないんですよ。地元の人だったら、あの山だ誰の山だからといって、大概その方が責任を持って私がうまいと処理しますから、ここに捨てとつても後で怒られませんよと。少々、どうかな、この木を切っては怒られるかなと思ったけど、いや、この木は私が責任を持って処理しますからということで、割合、思い切った作業ができるわけですよ。となると、かなり地元の人にさせる金額と業者に差せる金額とでは差が出てくるんじゃないかと。そして、よりきれいに切っていくんじゃないかというふうに考えたものですから、今後、そういう予算を考慮する計画が出たときには、そういう地元の人にさせたほうがよい利点というのも十分、考慮して対策を取っていただきたいということをお願いしておきます。

答弁はいいんですが、ちょっと林道の件について、ちょっと、今、写真をおくつとですね。これは林道のすぐそばの伐採後、1年半でできた場所なんですね。昨年からだんだんひび割れがひどくなったもんですから、管理の面で非常に今後、重要かなと思って、建設課のほうに写真を持っていってお願いしたところ、もう迅速に対応をしていただいて、そこをやった林業の業者さんにもいろいろ話をして、その相手方から重機を搬入して、できるだけ残材を取り除いてみますと、100%は無理でもということでした。それくらいやはり行政の方が行って指導すると、林道でもかなりこういうひび割れというのは防げるんじゃないかと思うんですよ。

最近の林業というのは、コストを下げるために全部、全幹で道路のそばまで持ってきて、大半の残木はバイオマスに出荷します。

しかし、どうしてもできないのが枝として一ところに杭を打って置くわけですね。それが3年後には、そこにひび割れして水が入って災害につながると。だから、これらの対策をやはり林道面では特にやっておく必要があるんじゃないかと思うんですが、そういうような話を聞いたことはないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今、林地残材という部分で結構、バイオマス等で焼却してエネルギーにするという部分で、ある程度、山からは出ていってるという認識はしてるんですけど、そういう仮置きというか、そういう形で林道の路肩辺に置いて、こういう危険箇所を作っていくということでは、また甚だ道路を管理する町としては本意ではありませんので、やはり建設課のほうにそういう形でいろいろな形で苦情が来るのかなあというふうには思っております。

ですので、伐採やらをすることで安全パトロールやら行くんでしょけど、そこばっかしじゃなくて、やはりその後ですよ、いろいろなところに置いてないかと。仮置きする場所は適切かとか、そういう部分も見えていただいて、林道に支障がないような指導を徹底してもらいたいと思うし、また、こちらのほうもしっかりと指導していきたいというふうには思うところであります。

そういう苦情というか、そういう形でいっぱい来てるかもしれませんが、そこは建設課のほうにお聞きしたいと思います。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 那須 富重】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

林道におかれましては、議員の皆さんも見たことがあるかもしれませんが、林道利用についてということで、白い看板を立てさせていただいております。

そのときに、林道において、大型車両を使用する場合には、林道使用許可申請書を出していただくようになっております。

その際に、また残材についてはというお願いもできるであろうし、そういうことで建設課内で徹底していければと思っております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

そうですね。そこまで考えていただいているのなら、余分なことは言う必要はないんですが、今、木材を伐採搬出場合には、御存じのように森林組合、農林振興課を通じて伐採許可証というものを取ってもらわないと市場が受け付けませんよね。

だから、その際ですよ、伐採許可証というのは、本人と登記簿がはっきりしていれば100%出ます。ところが、やはり終わったときに大事だと思うんですよ。許可証をもらってるけど、終わったときの調査をすぐしないと、やはり同じような、

すぐ1枚、余分にいっぱい残材が残ったところの写真がありますよね。

これは、1年間出して、1か所に残材として残った場所なんですけど、約10ヘクタールくらい切って、残った残材を半分以上はバイオマスとして出したんですけど、出し切れなくて、まだ残った場所なんですよね。

だから、私はすぐ行って、「今後、必ず災害が起きる要因の1つだ」ということで行きましたら、「いや、そう言われれば、まだまだほとんど残材をバイオマスに出して、そして残りは安全なところに中央に寄せていきます」というような返事がもらえたんですよね。

だから、私以上に、もし役場のほうが、建設課なり農林振興課が許可証を出すときに、美郷町独自の1つの基準をつくって、「絶対残材は道脇には置かない」とか、「終わったら、終わる前に行って調査をして確認をします」というような何かそういう申合せ事項なりを書いておくと、非常にそういう道路の管理が、林道に関してはやりやすくなるんじゃないかと思うんですが、そういうことはできないものではないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

普通、考えて、法律的というよりかそういうことはできるんじゃないかと思う、ただし書の中で。ただし、こういうことをちゃんと守ってくださいねという話ではできると思います。

また、搬出業者もやはりそこまでしっかりとした形で伐採業も行うということであれば、当たり前かなあというふうに思っておりますので、何らその許可証にそういうことを書くこと自体は何ら問題ないじゃないかなという気はしております。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

安心しました。私たちが言っても、そういうふうにしてある程度、聞いてはくれるんですけど、やはり行政の立場のある課長あたりなりそういう方々が行って、いろいろと指導をすると、やはりお世話になるということで、私たちの100倍くらい言うことを聞くんじゃないかと思うんですよね。

やはり美郷から災害を1つも今後、なくすということは無理なんですけど、その1つでも減らすという工面をするためには、ぜひともお願いをいたしまして、私の質問を終わります。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【議長 那須 富重】

これで、8番 森田 久寛議員の質問を終わります。

【議長 那須 富重】

ここで、10分間の休憩とします。

47分までの休憩とします。

(休憩：午後 1時37分)

(再開：午後 1時46分)

【議長 那須 富重】

それではおそろいのようなので、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。
次に、4番、川村 嘉彦議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

通告どおり西郷地区の幼稚園・小学校跡地利用についてということで質問状を出しておりましたが、先ほど、甲斐議員がいろいろ質問をして私が聞きたいことが大分、出ておりますので、省略をするところはしたいと思います。

通告の中では、6次産業化構想で西郷地区の幼稚園・小学校跡地の施設の一部を利用したいということであるが、その他の施設はどのように考えるのかということで質問状を出しておりました。今回は、体育館と幼稚園の跡を利用したいと。中身についてもいろいろありましたので、今回はそのほかの小学校の他の運動場やいろいろありますが、そのことについて、どう考えているのか伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

田代小学校の跡地利用ということではありますが、先ほど、甲斐議員の質問の中でもお話をしましたが、体育館と幼稚園についてはそういう形で利活用をさせていた

だきたいという話をさせていただきました。

ただ、田代小学校本体それとグラウンド等々ありますが、それについてはもう全然、白紙の状態であります。ですので、検討協議会等を組織していただいて、いろいろな方面の考え方をお聞きしたいと。そして、そこにこういう形がいいのではなかろうかというようなある程度の答申をさせていただいて、それにのっとり進めていきたいというふうに思っております。

ですので、町がこうしたああしたいという部分は、私の考えなんですけど、言いたくはありません。ですので、皆さんに協議をいただいて、こういう形のほうがいいのではなかろうかという部分で方向性が決まって、そこを改修とかいろいろな形が出てきたら、それにのっとりやっていきたいという思いであります。

ですので、全ては町民の方々が考えていただきたいということでもあります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

この6次産業化の考え方であそこを利用したいということであったから、一遍には無理かなというふうに思っておりますが、そういったことで進めるということでもありますから、できるだけ早めをお願いをしたいと思います。

この中で、さっきも出ましたけれども、私はずっと言ってきたんですが、後のスマート農業も関係ありますから、併せて質問したいと思います。

加工施設を造っても、よそから10トンくらい買っとるという話でありましたが、補助で作っても手間賃要らないで、やはり前も栗の苗の補助金はどうかということでもあります。今の栗農園は間隔が大体5メートルなんですね。その中が二、三本したらものすごく広く空くんですよ。補助金がないということでもありますから、自分で栗の苗を植えたら、また2年か3年後について、また2年、3年かかるんですね。かなり年数がかかりますから、こういったものをするなら苗木の補助も一体的に補償も該当してくれということの前、しておりましたが、この6次産業化と関係ないということで却下されかけましたけども、ですから後のほうで6次産業化の中でその他で入れておりました。もうここで話させていただければ、後のほうでは省略をしたいというふうに思っております。

やはり先ほども言いましたように、前、私は加工場があつた頃、「19年ですからもう二十二、三年たつてると。かなり機械が劣化して古くなつてるので考えてくれ」と言った覚えがあります。

それからもう一つは、伴います園の拡大というか、新植なり補植、これもドローンを使ってやっていただきたいと。

栗が一番上になるんですね。日の当たるところに。そうしますと、炭疽病でもドローンでも十分、できるのではないかとというふうに質問したことがあります。こ

の辺のところ、少しお話を伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

補助関係ですけど、やはりそういう話の中で今からその部分を育てていくためにいろいろの形の補助をとという話で、作ってたのがそういう形になってるということであれば申し訳ないなあと考えておりますが、考えさせていただきます。

いろいろな組織運営補助金というのは、もう要らんのかなあと私は思っていますので、やはり生産性に直結する補助、結局、苗木とかそういう部分にはどんどんどんどんやはり出していく必要はあるというふうに思っております。

また、そのドローンの使い方なんですけど、いろいろな使い方があるということで、私もドローン自体のどういう形で一番役立つのかという部分であまり分かりませんので、いろいろな利活用の仕方があるのだろうという気はしておりますので、また勉強しながら、そこ辺は考えていきたいというふうに思うところです。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

これは加工施設を造ることが目的もありますが、所得を上げる。もう一つは、その生産者の所得も安定して買うというのはしょっちゅう言ってますから、それは理解ができます。私ももう1年くらい前にその質問をしたから理解はできるんですが、やはりこれは両輪で進めていかないと、栗の生産者はいなくなるわ、よそから買うわではちょっとどうかなという考えもありましたので、今言ったような、ちょっと検討します。検討はいつまでですとかというので聞けということでもありますから、この加工場のことも併せて、そういった生産拡大もお願いをしたいと思います。

この6次産業化については、甲斐議員が細かく質問しましたので、私はこの6次産業化については生産のほうを今、言ったんですが、施設については割愛をしたいというふうに思っております。

ぜひ、前、私が言ったのは団体なり法人しか補助金しないということでありましたが、今度は今、加工場へのグループができれば、そこの従業員に免許を取らせて、そこが炭疽病の消毒くらいできるのではなかろうかというふうに思っております。そういったことも併せて検討を願えればと思っております。

それから、先ほど、ほかの施設は白紙ということでありましたが、校舎の一部を

使って、今年は特に産業文化祭がなかったからでしょうけど、油絵とか絵画ですね、それに書道とか手芸とか竹細工やらいっぱいしてる人がおります。そういった人が1年間やって、展示するところがないと。「できるならば、そういう小学校の跡地に一部でいいから考えて言ってくれんかい」と言ってきた方がおります。

これはなかなか、もうプロに近い方もおれば、1年間なりそういうことを一生懸命勉強して展示する場所がないと、何か寂しいのではないかと。やはり自分の磨いた技術、竹細工などを、そういったことも含めて検討願いたいと思いますが、どうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうことを含めていろいろな方面の方々を協議会のメンバーとして入れて検討してほしいと。ですので、1つの選択肢として、そういうこともいいのではなからうかと。

一番、田代小学校の強みといいますか、木造校舎であるということかなあと考えております。その木造校舎というか、木造を生かした跡地利用というか、どういう形にするかと。そんなに急がなくてもいいのかなあとという気が私はしています。

ですので、しっかりと御意見を聞きながら手をつけていけば、「ああ、あのときこうすればよかった」ではなくて、「あそこをしとってよかったですね」という話にもっていけるような。急いで話をという話もありますので、ゆっくりと議論しながら決めていけばいいのではなからうかと、そういうふうに思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

これは後のスマート農業に関係がありますから、ちょっと。

これは、県が昨年10月に県内の老年割合や生産年齢が発表されております。これによると、ゼロ歳から14歳までが美郷町では9.06、それから生産年齢、これは生産年齢は15歳から64歳だそうですが、これが38.51、それから、高齢人口が65歳だそうですが52.43という発表がされております。

私が一番、心配したのは、これを見ても、高齢年齢が一番高いんですね。それから、このゼロ歳から14歳までは今言いましたように9.06と、一番低いん

ですね、宮崎の26市町村の中で。それから、生産年齢で15歳から64歳もさっきも言ったように38.51で低いんですよ。

ですから、いつまでもこうじゃなくて、やはりさっきの栗もそうですが、早く手を打たないと、もうどんどんどんどん年が行ってどうしようもなくなると。

先ほど、出ましたけれども、早く園を育ておれば、いろいろな引き継ぐ人もおるでしょうし、また法人なりつくってやる人も多いと思います。ですから、できるだけ早めに、先ほどのやつを、後も関係もしますが、手を打っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほども申しましたように、栗で言えばいろいろな考え方があるという中で、やはり物は作ったけど生産物がないという話になると、これが本末転倒ということありますので、その両輪を一緒にやっつけという話でしょうから、そういう部分をずっと考えながら、どんどんどんどん栗の生産拡大なりを一緒にやっつけてくださいよという話の中では進めてきたつもりではありますが、まだまだスピード感がないということであれば、もう少し早める形でしっかりとそういう体制をつくっていきたいと思っております。

ですので、栗ばかりではなくて、ほかの作物もやはりそういう方向性で。良いのか悪いのかという部分ではなくて、今その生産物に対してはこういう形をやっているからオーケーとか、これはやはりもう一回、こういう形でしなければならないという話の中で決めていきたいなあ。

その指針となるのが、やはりそれぞれの部会がつくってる産地ビジョンかなあというふうに思ってます。ですので、そこをもう一回、しっかりと見直ししながら、組み立てていかなければならないと、そういうふうに思うところであります。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりましたけれども、少し本題からちょっと通告のところからずれつつありますので、そこあたりを修正しながら質問をお願いします。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

このスマート農業で、その他で書いたからそこで言おうかなと思ったけど、関連があったから言ったんですが。同じことだとダブると言われるだろうと思って、その他と書いていたんですが、これは、やはりさっき言ったとおりたんまりつくって

栗の生産がなかったら意味がないんですね。セットで聞いたほうが、分かりやすいかなと。

もう一点、今、園をすると、金の策ですね、これは3人共同しか出ないんですね、補助金が。ですから、今のように考えれば、1人でも、それかこういった人が共同でやってくれとか、情報しないと、自分で探すのは大変だと思いますので、これは答えは要りません。

次に移ります。一応、考えていただければいいかなと。注意されましたので、スマート農業について、推進について移りたいと思います。その他のほうで、あると思いますので、関連があると思いますので、一緒に。

【議長 那須 富重】

それでは、2問めの発言を許します。

【4番 川村 嘉彦】

これに書いてありますとおり、「園芸施設、キンカン、ミニトマト、花、その他」その他が今言った私は、栗を言おうと思ったんですね。これを、止めたらこれで質問しようと思ったんですが、関連があるから一緒に言ったほうがいいかなと思って言ったところです。

それから、繁殖牛などスマート農業の推進の計画があるかということ伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本町のスマート農業の現状についてであります。水稻におけるドローン防除とか、繁殖牛においては発情発見・分娩監視を、また体温測定で検知する牛歩や牛温恵の導入が徐々に広まってきているということでもあります。

しかしながらまだまだではあります。施設園芸においては、本当に難しい部分があって、まだ導入されていないということでもあります。

このスマート農業は、次の農業を振興していく上で、やはり労働力不足とかそういうものに本当に欠かせないものになってくるとは思いますが、その状況を見ながら、的確に判断してということになるかと思っております。

私が考えるに、スマート農業のうち辺で言えば、一番最たるものは何かなあと思ったときに、ブロイラーではなかろうかというような気がしております。昔のブロイラーと今のブロイラーの生産体制といいますか、全然、違いますので、それがスマート農業に一番近いかなあという部分であります。

ですので、今後いろいろな作物がありますので、その中で的確に労働力に対処する、そして、生産性向上に寄与するスマート農業をやはり積極的に図っていく必要があるのかなあというふうに思うところでもあります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

これは数字はいつも時々言いますけども、これ、発表があつて若干、ずれがあると思います。いつも言いますけど。

また言いますけれども、2020年度、九州農政局が農林業センサスでは、5年前と比べると県で1万82人の減だそうです。平均年齢が65.9歳、担い手育成を進めながらスマート農業の導入を図り、生産基盤の強化をしていくと。今後も生産年齢は減少が続くのではないかという見通しを発表しております。

そういったことをどう考えているか、お聞きしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

人口動態といいますか、そういう形の中で少子高齢化の中で人口が減少していくということは見てとれるように、やはり2040年問題、いろいろなことが出てきておりますので、本町もそういう形で行くのかなあと。

それをしっかり食い止めましょうやという話の中で、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成したということでもあります。これにのっとして2040年3,000人という形で言ってますけど、それじゃなくて、現状維持ではいけないかという部分で、皆さんで頑張りましょうという話であります。

結局、これから先というか、アフターコロナの中でどういう人の動きがあるかということをしっかりと考えてながら、先々に手を打っていく必要も出てくるという部分があるのかなと。

ですので、スマート農業という部分とそういう担い手確保という部分は一緒にやっていく必要があるというふうに思っておりますので、やはりその自然現象に準じてという話じゃなくて、あがなうというかそういう形で一生懸命やりながら、スマート農業といえどもそれを動かすのは人でありますので、人が基本と考えますと、やはり人口をある程度の一定人口を保たなければ美郷町の将来がないというふうに思っておりますので、いろいろな意味で地方創生の総合戦略を具現化していくことに尽きるのではなかろうかというふうに思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

私が調べたところでは、ミニトマトとキンカンについては、温度センサーで自動開閉器は100%とはいいませんけど、ほとんどついているようであります。

ですから、雨が降ったり天気がよくなったりしても、温度セットをしていればもう自動でほとんどの農家ができてると。

ただ、ホウズキとか花についてはまだまだのようではありますが、やはりこういったものはそんなにたくさんではありませんので、少しずつでも、予算のあることですから一遍にということはできないでしょうけど、少しずつでも管理して、進めて推進をしていただきたい。

それからもう一点は、冬、燃料が無くなると自動で知らせるのがあるんですね。これも携帯で見れば分かります。これについても、ぜひ、推進なり進めていただければというふうに思っております。いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

燃油ということで、結局、ハウス内のボイラーなんですけど、1回、ある程度、今は農協さんが回ってきてちゃんと減ってるところには追加給油してそういうことはないということないということなんですけど、1回、そういうのがありました。1回、全然、油が入ってなくて非常に産物にというか、温度が下がってるのに、結局、設定しておったけど油が入ってないということ。

これは生産者のほうも悪いんですけど、また、そういうことが起こらないように、そういうセンサーとか、それと幾らセンサーが稼働しても、やはり油がなければ何もないという話ですから、そういう部分をしっかりと考えていきたいと思っております。

また、言われるようにハウスの中でそういう開閉器とかそういういろいろなものはどんどんどんどんつけてきているんですが、まだまだ足りない部分は町の補助金それと県の補助金抱き合わせで、やれるところはどんどんやっていきたいと、そういうふうに思います。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

これは花とかハウズキ、農家が面積が狭いんですね。これは認定農業者しか出さんとやろかいと。いろいろなコロナ対策で維持資金ですかね、あれ辺が100万円くらいあると。で、おれたちのは駄目っちゃろかいという話がありました。

今日、全体的に出してるので、ちょっと聞いてみますということではありますが、これは町独自なり、コロナ対策の維持資金が100万円、分かりませんが、町のやつが100万円くらいという話ですが、そういったもので認定農業者じゃなくてもできるのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今、ある程度、認定農業者で進めていくということで、条件の中に認定農業者が入ってるのかなあという記憶がありますが、その認定農業者じゃない方々をどうするのかという部分は今後の検討かなというふうに思っております。

認定農業者になるためには、いろいろな審査を受けて、「こうしますよ」という将来ビジョンがしっかりしてるということですので、結局、そこだけを受けてしっかりとした認定農業者としての位置づけ、そしてそういう形に対しての補助金の交付ということですので、ある程度、そこは縛られると。

ですので、生産者自体が一生懸命、頑張らなくてはならないという、手かせ足かせもついてきますので、それを緩めて全部いいですよという話には、急にはならないのではなかろうかと思っておりますが、そこ辺のすみ分けというか、それをどうするかというのは、今後の検討にさせていただきたいというふうには思います。

でも、やはり今後は、認定農業者になって美郷町の農業のために頑張りますよということで、専業になるか副業になるか分かりませんが、そういう形での認定ですので、やはりそちらのほうは優先したいというふうな考え方は変わりません。

以上です。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

なかなか難しいだろうというふうに思っておりますが、先ほど言いましたように、今、生産年齢がもう66歳、65.9歳、それから面積を拡大して、認定農業を計画的に出してもかなり厳しい面があるのかなあという感じがしております。

そういったことを考えますと、さっきの栗もそうでしょうし、後の畜産もそうですが、もう頭数を何十頭からが認定者になるのか分かりませんが、できたら、そういったものを多く取り入れて、その人がやれなくなったら子供がUターン、Iターンしてでも帰ってくるような体制づくりも必要ではないかというふうに思っておりますが、もう一度、伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

担い手そして後継者、商工業で言えば事業承継者ということになるかと思いますが、やはりそのような政策というか、そういう人たちが帰ってきていただくような魅力ある農林業といいますかそういうものを確立する必要があると。

早く言えば、その家で「帰ってこいよ」と言えるような基盤といいますか、そういうものをつくる必要があるということだと思います。

ですので、そのためには、町としてしっかりとした下支えをしていくということが基本かなというふうに思っております。

ですので、今後そういう部分を頑張りながら、それぞれの農家さんがしっかりとした経営をしていただければ、子供に「こういう状況じゃから帰ってこんか」と、「大丈夫じゃが」と、「子育て環境もいいし、いろいろな制度があるし、子供に対してはそんなにお金が必要らんど」とか、そういうものをひっくるめた中での農林業の振興という部分も重なってくるのかなあと。

ですので、やはり360度見回しながら頑張っていくような町政にしなければいけないかなあと。1つはよくて1つは悪いということであれば、アンバランスでありますので、そういう方向で進みたいと、そう思っているところであります。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

私は、ほかの人と話すときも、必ずも20代、30代じゃなくていいと。もう60代くらいが定年したらいんできて、おやじさんがミニトマトをしようと。そして後を継ぐとか、栗をしようと。そうすると家賃も要らないし、そういうので小遣いもできる、年金をもらいながらと。

将来は、やはり美郷町くらいの耕地面積では専門なんかはよほど大きくないといけない部分もありますので、やはり二刀流でこういった人も積極的に帰ってきてい

ただいて、そういった農業も引き継いでもらうということも重要ではないかということで質問したところであります。

これ、答弁要りませんが、続きまして、牛のほうに、繁殖牛のほうに移らせていただきますが。

牛も、挨拶の中で町長が言われましたとおり牛歩を作れば発情が分かるそうですね。それから今は、その、つけると、50頭くらいだったら一頭一頭みらんとどれが発情したか分からんと。見落としがあったりすると。そうすると、次との回転が悪いそうです。

それは、まだ発情は人のほしとるという話で、私の話を聞いたわけですね。

それから、分娩が膣の中に、牛温恵というのがあったそうですが、それを入れておくと分娩が分かるそうです。もう一々ついとかなで。だから、夜中に、今日、頑張らっしゃがとか、50頭しとったらもう何ちゃおきに行かないかんと。そういったものがあるそうですが、それが3名だそうです。これはもう結構、高いもんですから。

しかし、今、牛も値段がいいわけでありましてけども、やはりそういった事故率をなくすことから考えますと、こういったものも推進なりを補助対象辺にはならないのか。私がいつも「補助、補助」と言ってますけれども、やはりそういった今後、支える意味では、後押しするでも町のほうで考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

多頭の農家さんだと思っておりますが、どの牛がどんげということで、結局、その飼育者が把握すべきことだろうというふうには思っておりますので、言われるように今、3軒ですかね、そういう形でしてるのは。

ただ、私が回ってみて、畜産農家さんから聞くのは、今の子牛を購入するときの価格の補助金ですよ、これだけ変えるなど。あとはもう何もないという話でありますので、ここまでは考えたことはありません。

ただ、思うときがあるんですが、例えば、100万円の牛を買ったときに、3割、30万円出して、今度はその親牛を成牛市であげて、今、資産価値が高いもんだから、例えば、50万円したと。50万円で売れば、30万円として80万円、結局、資産価値とそういうことをすると、100万円で買ったやつの牛の手出しは20万円という話になりますので、非常に今の制度はいいんじゃないかと。

ですので、また回って、こんげして分娩が大変だからという話は耳に届いておりませんが、やはり多頭が多くなると考えていかなければならないと。

中山先生に聞くと、共済が適用されるのが20頭くらいだなどという話であります。共済が適用されない、やはり死産・流産という部分があるということで、これがやはり十二、三頭と。年間やはり30頭前後がそういう形に遭ってるということでもあります。

ですので、今のは発情が来とるか来とらんかという話でありますけど、せっかく

ついた部分の生まれるときの死産とか流産があるということも価値というか生産の資産でありますので、そこ辺もしっかりとした形を取らなければならぬのかなあというふうには思っております。

中山先生1人で800頭弱の牛の管理ということは、本当、大変でしょうけど、そういう意味を含めて、やはりスマート農業といいますか、そういう部分で畜産振興のために、今後は考えていく、要望があるなしにかかわらず考えておくべきことかなというふうには思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

生産農家が西郷で26戸だそうです。飼育頭数が426頭、子牛の出荷が330頭、これは月の捉え方で違うから若干、数字は変わると思います。それから南郷が20戸、191頭、出荷が154頭だそうです。それから北郷が23戸、そして216頭、186頭、出しているそうです。合計で830頭くらいで69軒、70軒弱なんですね、生産農家は。

これは余談ですが、平均単価は68万円から70万円の間という話を聞いております。かなり所得が高いので、事故に遭うと、やはり激しいんですね。

それから、牛歩で分かると、1頭でも2頭でも分かれば、かなりの効果があるのではないだろうかというふうに思っております。そういうようなところ、もう一度、お聞きしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはり小規模というかそこはいいとしても、多頭のところだろうと思っておりますので、そこ辺は1回調査して、今、3件ありますので、それでそういうものをつけた前と後という部分でどのくらい変わっているのかという部分をちょっとお聞きしながら、先ほど言いましたように、今から先はやはりそういう部分でしっかりと種つけて1年1産を目指すということで基本でありますので、そういう方向性に向かってはそういう補助の制度は今すぐにではなくても、先々においてやはり検討すべき課題になってくる可能性はあるということでもあります。

ですので、いっつも付いとかなでいいという利便性もありますので、それは検討

していききたいと、そういうふうと思うところであります。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

あまりこの事務的なことは町長さんは分かるかどうか、分かるかもしれませんが、コロナ対策、さっき出ましたけど、経営維持資金が100万円くらい出ると。何かでこれを申し込むかということであったけれども、「認定農業者じゃないと出らん」という話どって。だからもうええせんとよ」という話でありました。そこ辺のところ分かれば、課長でも分かればちょっとお聞き願いたい。

【議長 那須 富重】

いいですか。少し通告からちょっと反れた質問になってはいるんですけど。川村議員、少しこの通告に上がってないので、なかなか答弁。

【4番 川村 嘉彦】

スマート農業の一環だと思うんですよ。牛歩ですから。

【議長 那須 富重】

はい。コロナ関連の予算ということでなってるので。

【4番 川村 嘉彦】

じゃあ、スマート農業の該当しないと、申し込もうとしたけど。だから牛歩やら牛温恵をスマート農業の一環ですね。これをつけようとしたけれども、認定農業者じゃないので、できんと。だからその対応をできないかという話です。

【議長 那須 富重】

かぶるけど。さっき、1回、答弁……。いいですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな形の中で、コロナの補助金、補助金といいますか結局、臨時交付金になるわけですけど、いろいろなものの対象をつくっていったらということ、その中で、やはりそういうどうしてもこういう要件のところの対象ですよということ、つくり込んでいきますので、やはりそれ以外にはということ、ちょっとできませんという形になったという話だと思います。

今後、やはりそういう農家さんといえますか、今さっき言った「基礎基本は認定農業者という部分でやっていきたいと。そのほかをどうするかというのは、今後の検討にさせていただきます」という話をしました。

何でもかんでもいいのかという話ではないような気がするような気がします。でするので、やはりしっかりとしたビジョンの中で、今後、うちの経営はこうしていきますよという話をもってやっていただくためには、やはりこういう要項をしっかりとつくって、もしこういう人たちの部分で拾うとすれば、こういう計画を上げてこういう形で報告してくださいねとか、そういうのは補助金を出す以上は、やはり求められることかなあというふうに思いますので、それもしかりとまた検討という、「検討、検討」と言っていますが、そういう方向で精査させていただければなあというふうに思うところです。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

ちょっと私の質問の仕方が悪かったのか分かりませんが、「駄目」って言われたんじゃないですね。自分で駄目じゃないかと、農業認定者じゃないから。「だから申込みはほかの3人くらいでしょうとしたけれども、おれはええせんかったつよね」ということでありますから、もう少しそのところを部会でもいいですから周知徹底をしていただければということであったわけでありまして。

ただ、申し込んで断られたということではないようです。3人くらいで申し込もうとしたけれども、農業認定者じゃないないと該当しないのではないかと自分から辞退したということでもありますから、これについては答弁は要りません。

いずれにいたしましても、先ほどの言葉で、「今までやってきてないことをやる」ということでありますから、いろいろな縛りがあると思いますが、やはりその縛りもできるだけ町単だけなのか、有利に国やら県単の事業を入れるのかということもありますけれども、農家の要望に答えるように対応していただければなと思っておるところであります。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その生産者の方が自分で手を下ろしたということではありますが、いろいろな補助制度がありますので、それに何に引かかるか分かりません。引がかからんときもあるかとは思いますが、諦めないで、一応、担当課の方に問い合わせしてほしいと。

今さっきの部分は「がんばれ農業者で救えるっちゃんないか」とか、課長が言っていますので、やはり自分で判断しなくて「こういう形ですがどうでしょうか」という

ことで、そのときの予算がもう決まっちゃったらちょっと問題かもしれないけど、次の年にどうですかとかいろいろあると思いますので、そういう形で言ってもらえればなというふうには思うところです。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦】

もうこれで終わりますけれども、先ほど、言いましたように生産年齢なり農業をやっとる人も高齢で面積がどんどん少なくなってきております。

先ほど言いました栗園も、やっとる人がかなり大きな園をやっとるんですが、もうええせんかったと。縮めようかなという話を聞きましたので、やはりこういった意味を含めたら、少しでも生産維持をして、先ほど言いましたように、私も前、6次化、町長の公約はどうかということで質問したんですが、もうこういったら維持ができないんですね、生産基盤が。農業なりそういった畜産なり林業を進めていただきたいなあというふうに思って質問をしたところでありまして。回答は要りません。

以上で、終わりたいと思います。

【議長 那須 富重】

これで、4番 川村 嘉彦議員の質問を終わります。

ここで、10分間の休憩とします。

再開を38分からの開会とします。全員おそろいであれば、ちょっと早めに再開しますので。

(休憩：午後 2時27分)

(再開：午後 2時36分)

【議長 那須 富重】

それではおそろいのようなので、休憩前に引き続きまして、一般質問を再開します。

次に、2番、中嶋 奈良雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【2番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

2番、中嶋 奈良雄議員。

【2番 中嶋 奈良雄】

通告どおり一般質問をさせていただきます。

町道、林道の改良補修について。

森田議員がほとんど言ってしまいましたので、私の言うことはほとんどなくなってしまいました。質問させていただきます。

北郷地区内において、町道、林道の亀裂、路肩崩壊、吹きつけのり面崩壊があり、スクールバス路線など危険箇所が見受けられる。早期の改良、補修が必要と思うが、考えを伺いたい。

町長は、「地域の基礎的な社会資本である道路整備につきましては、適正な維持管理を行うことにより道路施設の長寿命化に努めてまいります」と言っています。私もそのとおりだと思っています。

町道は生活路線であり、亀裂凹凸などあり、高齢者の人は避け過ぎて危険なところがあります。側溝の詰まりもあり、これからの台風・集中豪雨などで亀裂部から水が入り災害など大きくなる前に早期補修が必要と思われまます。

町の作業班がありますが、労働作業班はできないか、伺います。

林道は、大型車両などで路面の傷みが見られますが、森林環境譲与税などでできないか、伺います。

黒木・小黒木線のスクールバス通学路は道幅の狭くカーブがあり、クラブ活動で遅くなった場合、対向車線が来たときバックが困難であるとのこと。路面吹きつけの亀裂も見られ、改良補修が必要とされます。通学路は安全安心ではないかと思われまます。早期改良が必要と思われまます。伺います。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許可します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町道林道の改修・補修ということですが、北郷地区内に限らず美郷町内全域であります。主要幹線道路等々は大きな制度事業を使って整備改修、いろいろな形でやっておりますが、その他の町道について、なかなか町民が満足できるような形にはなっていないというのが現状かなあと思っておるところであります。

議員おしゃるとおり、町道、林道の亀裂や路肩崩壊につきましては、木材運搬車の大型化や舗装の経年劣化により多く見受けられます。

林道は森林整備や木材搬出のために設置した道路でありますので、ある程度の損傷はやむを得ないと理解しておりますので、広範囲な舗装補修については県の補助事業で、部分的な舗装補修や路肩決壊は町の単独事業や町内業者による維持管理委託業務により行うこととしております。御案内のとおりであります。

日常の生活に直結する生活道路となっている町道の損傷においては、その損傷で地域住民などの通行に支障があるようであれば、随時、補修は行うこととしておりますが、そのほとんどが町単独事業や町内業者による維持管理委託業務となり、補修範囲が限られますので、広範囲な補修につきましては、国の社会資本総合整備計

画、あるいは道路構造物の的確な維持管理による事業採択ができないか県と協議を行っていくことといたしております。

いずれにせよ、道路管理者として適正に管理をするという責務がありますので、予算の都合もありますが、可能な限り維持補修に努めてまいります。

損害賠償という話になりますが、その道の管理が悪ければ、こちらのほうにそういう賠償請求が来るということになりますので、やはりライフラインでありますので、そういうことが起こらないように、今後とも維持補修には万全を努めていきたいというふうに思っております。

次に、御指摘のありましたスクールバス路線内ののり面崩壊につきましては、現場確認の結果、緊急度が高いと判断しましたので、国の社会資本総合整備計画、道路構造物の的確な維持管理の整備計画に追加を行いたいと考えております。

なお、事業までは期間を要しますので応急対応を行うこととしております。現在、町道黒木・小黒木線は国の防災・安全交付金事業の通学路の要対策箇所として、平成26年度より改良工事を継続して行っており、要望する予算配分が行われた場合は、令和3年度には町道谷久線との交差点まで改良が終了する見込みとなっております。

町が町道黒木・小黒木線、防災・安全交付金事業の通学路の要対策箇所として要望を行っている整備区間は、町道谷久線までとなっております。

ですので、これに採択をいただいて実施したいというふうに思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【2番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

2番、中嶋 奈良雄議員。

【2番 中嶋 奈良雄】

町道に関しましては、町道の本線は意外と管理されているんですけど、そのほかの生活道路、奥の町道に関しましては部分的に亀裂などありまして危険度が高い恐れがあるんですね。道幅も狭いし、木が茂ってそれを避けようとして、高齢者の方が多いもんですから、そこに限ってガードレールもないということで、冬などはまた葉っぱなどが落ちて滑るということを知っています。

そういうことで、全面的に改修するのではなくて部分的に補修してもらいたいということなんです。そういうところが何か所もありますので、できるだけ金をかけなくて安全な道にしてもらいたいということなんです。

それと、車の通行量も多い関係上、中央線がもう消えているところが何か所か見受けられます。そういうところも要望がありまして、とにかく交通量が多くて危ないと、スピードを落とせというのはあるんですけど、肝心の中央線が消えているということで、ある箇所ではもうちょっとした事故も起きてますけども、そういう点をお願いしたいと思います。

林道に関しては、のり面崩壊で大きなところはすぐに着工していただき、本当に感謝しているところです。

ですが、路面の傷みが見られまして、これも部分的に傷みが多く見られます。ある人には、「痛みが激しくてよそ見をしようとペロやら出しちよっと食い切るぞ」と言われました。そういうところは行政の方が見ていただいて、危ないということで取り上げてくれてるんですけど、まだ未着工のようでもあります。

そういうことで何か所もそういうところがありますので、部分的に危ないところはできる予算内の間で補修していただきたいと思います。森林環境譲与税などではできないかと思っておりますが、そういうところは行政じゃないと分かりませんので、またお願いしたいと思います。

それと、スクールバスの通学路に関しては、のり面崩壊が私も行って写真などを撮りましたが、すぐに対応していただきありがとうございます。

そのほかに、カーブの狭いところがありまして、そこでよく対向車線と出会うんですけれども、スクールバスは車がちょっと大きいもんですから、夜になるとやはりバックがしにくいということで、ここもやはり何回か接触事故があったところです。だからこういう場所は部分的に広くしてもらいたいということです。

そして、側溝も埋まってまして、台風とか集中豪雨のときは、私はすぐ見て回んですけども、道路が川のようになってます。そういうことで、スクールバスの運転手さんが運転がしにくいということでございます。

私も、行政にあまり迷惑をかけたくないということで台風など、後すぐ見回ったもしますけども、1人で見回るとやはり危険が伴います。というのが、町道ののり面が崩壊して、そこで私が台風が過ぎ去った後、大丈夫だと思ってチェーンソーで木を切っていたところ、2回目の崩土が来まして、気づいたときには両足いかって倒れていました。多分、意識を失っていたと思うんです。チェーンソーはたもの中に行って転げていって、まだエンジンはかかってましたけども。目が覚めて上を見たら、これで来たら、私は命がないと、必死で脱出した経験があります。

側溝に関しても、川のようになってますので、たまたま手袋をしてなくて、さらいよったらヒヤッとしたもんですから、蛇かなムカデかなと思いましたが、歯形がありましたので、これはヘビじゃたらいかんなどと思ってすぐ病院に行きましたんですけど、おかげさまでムカデじゃったようです。

だから、やはり1人でいろいろ動く危険が伴うということをつくづく思いしらされました。そういう関係で、迷惑をかけたらいかんなどということもつくづく感じた次第です。

北郷内に関しては、朝早く側溝をさらえている方も見受けられます。空き缶を拾う方もおられます。入下などでは、ある代表者の方が5人くらいの人夫を来てもらってボランティアで側溝をさらえたりとかいろいろされている人が見受けられます。

私は一番奥に住んでますのでそういう機会をよく見るんですけども、やはり町の作業班の方も一生懸命、草切りとか空き缶拾いをされているようです。

でも、皆、高齢化しているためにみんなの負担が大きくなって、自然と町に頼らざるを得ないような状況になっていますが、私は、そういう町の作業班が、労働作業班などでできないかとか、そういうことを考えています。町もそういうことはできないか、伺いたいと思います。

入り込んだ町道などは道幅は広いんですけど、土とか石が落ちてきて、せっかくの道路が機能してないところがいっぱいあります。それはタイヤショベルなどですくって捨てると、もう道幅が倍になるようなところもいっぱい見受けられますので、

そういうところを、1か月かかるわけじゃありません。1日ですぐ終わるようなところがいっぱいあります。そういうところを労働作業班などをつくっていただいて、補修などをしてもらいたいなど、お願いしたいと思いますが、町長はどうお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃるように、本当にそうかなという感覚は私も持っています。いろいろ主要道路という部分じゃなくて、入込に入っていくと、本当にクラックが入ったり危ないなという部分があります。

建設課のほうで調査をして、やはり優先順位をつけてそういう維持管理といえますか、そういう形は町単でやってまいっておりますが、まだまだ行きついてないという部分であります。

先ほど、やはり道路管理ということで業者に委託していろいろな形でさせていただきますけど、それでもしっかりしたものができてないということであれば、少し考え直そうかなという気もしておりますが、町単でやる部分ではやはりいろいろなお金がかかるといことでありますので、令和3年度で維持的なものでそういう改修、3,000万円くらいつけてると。ですので、全部を直すというではなくて、切って直すという形を取らざるを得ないかなあというふうには思っています。

ですので、やはり安全性の確保という部分は非常に重要でありますので、やはりそちらのほうの町単の道路維持というか、そういうことにも目を向けていきたいと思っております。

また、安全施設といえますか、その中央線が切れてるとか消えかかって分からないという部分も本当に見受けられますので、そこ辺もどっちがどっちやという部分が出てきます。ですので、そこ辺もまた建設課に見回っていただいて、優先順位をつけて、そういうこともやってるんですけど、まだおぼつかない部分があるかなというふうには思っておりますので、そういう形での対応というか、そういうことをしていきたいと。

道路上でもし事故、いろいろなことが起こったとき、管理責任者として町道、林道、そこ辺の賠償責任は出てくる可能性が非常に大きい。運転者の過失によらない場合には、そういう形になりますので、そこ辺はしっかりと対応していく必要があるというふうには思っております。

また、「作業班等をつくってそこ辺に」という話ではありますが、やはりいろいろさせる場合には契約をした中で業者をお願いしたほうが良いというふうには思っておりますので、そこ辺も含めた検討をしていきたいなあというふうには思っております。

環境譲与税については、担当課長、農林振興課長に説明をさせていただきますけど、時々そういういろいろな形でボランティアで道路の清掃、いろいろな維持をしていただいているのはありがたいなあというふうには思っております。

黒田 仁志議員がよく言いますけど、ジョン・F・ケネディの「あなたたちに何

をしてくれるかを問うのではなくて、自分たちが国のために何ができるか」と、そういう気持ちをやはり育てていく必要もあるのかなど。少子高齢化の中ではありますが、そういう部分でみんなの手を取り合いながら頑張る必要性もあるというふうに思っておるところです。

環境税については、農林振興課長から説明をさせていただきます。

【農林振興課長 木原 浩一】

議長。

【議長 那須 富重】

農林振興課長。

【農林振興課長 木原 浩一】

御質問の林道作業道の維持管理に環境譲与税を充当したらどうかということなんですが、実際、もう御存じだと思いますけど、森林環境税を使うにはいろいろな条件等がありまして、まずは森林経営計画が策定されていない地区についての交付ということが大前提になってますので、もし、その森林経営計画が策定されていない林道への連絡道であれば、ある程度は充当できるのではないかなと思います。

また、全国でもこういう維持管理のほうに充当してる市町村もありますので、実際、どういう部分にという詳細な状況、そこらをもたお聞きをして、そういうので県のほうとも相談をして今後、検討していきたいと考えております。

以上です。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【2番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

2番、中嶋 奈良雄議員。

【2番 中嶋 奈良雄】

森林環境譲与税のことは分かりました。

ただ、町道の維持管理のことでちょっと私は、何と言いますかね、いろいろ要望がありまして、草切りは二、三回してはいますが、どこでも、これは南郷でも西郷でも一緒だと思うんですけども、要するに、側溝などが1年に1回さらえてもすぐ詰まるんですよ。イノシシが石を落としたりとか葉っぱが集まったりして。そのために道路が川のように非常に通りづらいと。台風のとときでも、もう川のようになっていると。谷からの側溝が小さくて、もう車が通るのも怖いような状態になっているところもあるんです。見受けられるんです。

そのときに、せっかくある町の作業班がそういうこともしてくれるならば助かるかなあと。タイヤショベル1台あれば、十分、できることではないかなと思ってます。私も、土建業に8年ほど従事していたことがありまして、そういうことがありましたので、それでも十分かなあと。

そういう即対応できるような体制に町はできないかなと思っているんですが、伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに公共作業班の中でそういう形ができれば、一番いいかなあと考えております。

北郷地区の場合は昔、サングリーンですかね、この会社があったということで、この会社が一気に引き受けて林道等を作業道まできれいにしてきた経緯があると。そういう職務というか仕事を請け負ってやってきたということは非常にいい部分があるなど。

ちょうどそのサングリーン自体がずっと継続してあれば、やはり町のためには非常によかったかなという私は思いがあります。サングリーンがなぜそうなったのかという部分は難しい部分がありますが、そのまま継続していれば、やはりそこにかかなりの従業員がいましたので、そこに町内の作業を全部、任せれば、ある程度のそういう問題は解決できたのではなかろうかと、今思うところではありますが、それを言っても致し方がないという部分はあります。

議員おっしゃるように、公共作業班が云々というよりか、そういう部分を対処できるような形をつくっていくと。

また、その森林環境譲与税なるものの使い道が、使い方がそれでいいという話になれば、またちょっと話は違うかなと。財源的にはそれが活用できるという話になれば、少しずつ明るい方向で、その末端のそういうクラックとか側溝とかいろいろな形の対応はできていくのではなかろうかと。

あくまでもやはり今言う建設業者さんに任せていったほうがいいかなあと、基本的には。ただ、今さっきも言うように、ぴしゃっとせんという話で進んでいくといけませんので、そこへんは委託する以上はこちらの責任ということもありますので、しっかりとやってくださいという部分で、駄目なときには手直しという話もあってもいいかなあと考えておりますので、そういう方向で検討をしていくということで御理解をいただければと思っております。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【2番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

2番、中嶋 奈良雄議員。

【2番 中嶋 奈良雄】

町の前向きな姿勢がよく分かりました。

2040年に美郷町の人口が3,000人となる予想がされておりますが、人口を守るためにも改良補修は大事なことだと思われます。町がこの改良に取り組んでいただければ、やはりよその方も来たいという意識を持つんじゃないかと思われます。現に、都会から地方に来られるのが多くなっているようでございます。コロナの影響で地方で仕事ができるということが分かりつつありますので、そういうことを踏まえながらお願いしたいと思ひます。

私の質問は、これで終わりたいと思ひます。

【議長 那須 富重】

これで、2番 中嶋 奈良雄議員の質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部、終了しました。

本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午後 3時 1分)